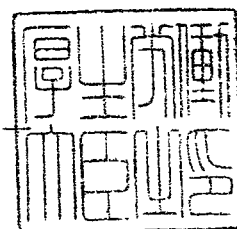


厚生労働省発食安第1020009号

平成20年10月20日

薬事・食品衛生審議会
会長 望月 正隆 殿

厚生労働大臣 舩添 要



諮 問 書

食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき、下記の事項について、貴会の意見を求めます。

記

次に掲げる農薬の食品中の残留基準設定について

フルセトスルフロン

平成20年12月18日

薬事・食品衛生審議会

食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会

農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会

農薬・動物用医薬品部会報告について

平成20年10月20日厚生労働省発食安第1020009号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくフルセトスルフロンに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

(別添)

フルセトスルフロン

1. 品目名：フルセトスルフロン (Flucetosulfuron)

2. 用途：除草剤

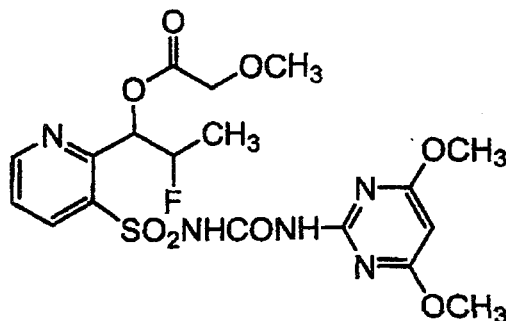
スルホニルウレア系除草剤である。広葉雑草、カヤツリグサ科雑草、ノビエ等のイネ科雑草に対して除草効果を示す。アセトラクテート合成酵素の働きを阻害することにより作用すると考えられている。

3. 化学名

1-{3-[(4,6-dimethoxypyrimidin-2-yl)carbonyl]sulfamoyl}-2-pyridyl}-
2-fluoropropyl methoxyacetate (IUPAC)

1-[3-[[[(4,6-dimethoxy-2-pyrimidinyl)amino]carbonyl]amino]sulfonyl]-
2-pyridinyl]-2-fluoropropyl methoxyacetate (CAS)

4. 構造式及び物性



分子式	$C_{18}H_{22}FN_5O_8S$	
分子量	487.46	
水溶解度 (20°C)	純水:	0.20 g/L
	pH4 緩衝液:	0.0047 g/L
	pH7 緩衝液:	2.4 g/L
	pH10 緩衝液:	33 g/L
分配係数 (25°C)	pH4 緩衝液:	$\log_{10}Pow=1.4$
	pH7 緩衝液:	$\log_{10}Pow=-1.0$
	pH10 緩衝液:	$\log_{10}Pow=-1.3$

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方は以下のとおり。

(1) 0.22%フルセトスルフロン粒剤

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水稻	ノビエ コナギ ホタルイ ウリカワ ヒルムシロ ヘラオモダカ (北海道)	移植後 20 日～ ノビエ 4 葉期 但し収穫 45 日前まで (移植前後に使用する 除草剤との体系で使用)	壤土～ 埴土	1kg/10a	1 回	灌水 散布	九州を除く、 早期および 普通期栽培地帯
		移植後 20 日～ ノビエ 3 葉期 但し収穫 45 日前まで (移植前後に使用する 除草剤との体系で使用)	砂壤土 ～埴土				九州の早期 および 普通期栽培地帯
		移植後 30 日～ ノビエ 5 葉期 但し収穫 45 日前まで (移植前後に使用する 除草剤との体系で使用)	壤土～ 埴土	1.5kg/10a			九州を除く、 早期および 普通期栽培地帯
		移植後 30 日～ ノビエ 4 葉期 但し収穫 45 日前まで (移植前後に使用する 除草剤との体系で使用)	砂壤土 ～埴土				九州の早期 および 普通期栽培地帯

フルセトスルフロンを含む農薬の総使用回数：1 回

(2) 0.44%フルセトスルフロンジャンボ剤

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水稻	ノビエ および マツバイ (東北) ホタルイ ヘラオモダカ (九州) ウリカワ ヒルムシロ	移植後14日～ ノビエ4葉期 但し収穫45日前まで	砂壤土 ～ 埴土	小包装 (パック) 10個 (500g)/10a	1回	水田に 小包装 (パック) のまま投げ 入れる	東北
		移植後14日～ ノビエ4葉期 但し収穫45日前まで	壤土～ 埴土				北陸
		移植後14日～ ノビエ3葉期 但し収穫45日前まで					九州

フルセトスルフロンを含む農薬の総使用回数：1回

(3) 10%フルセトスルフロン顆粒水和剤

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
				薬量	希釈水量			
移植 水稻	ノビエ および マツバイ (東北) ホタルイ ヘラオモダカ (東北) ウリカワ ヒルムシロ	移植後14日～ ノビエ4葉期 但し移植後30日まで	砂壤土～ 埴土	22g/10a	500mL/10a	1回	湛水 散布	東北
			壤土～ 埴土					北陸

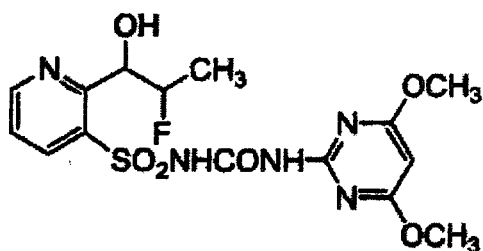
フルセトスルフロンを含む農薬の総使用回数：1回

6. 作物残留試験結果

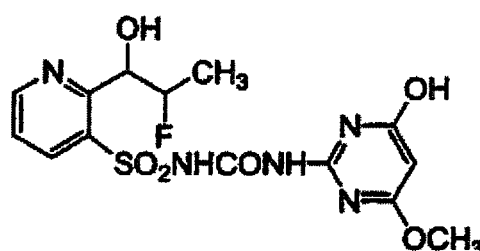
(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

- ・ フルセトスルフロン
- ・ *N*-[[(4,6-ジメトキシ-2-ピリミジニル) アミノ]カルボニル]-2-[2-フルオロ-1-(ヒドロキシ)プロピル]-3-ピリジンスルホンアミド (代謝物 B)
- ・ *N*-[[(4-ヒドロキシ-6-メトキシ-2-ピリミジニル) アミノ]カルボニル]-2-[2-フルオロ-1-(ヒドロキシ)プロピル]-3-ピリジンスルホンアミド (代謝物 F)



【代謝物 B】



【代謝物 F】

② 分析法の概要

LC/MS/MS 法

磨砕した試料を水に浸漬したのち、80%アセトニトリルで振とう抽出する。セライトろ過したのち定容とする。抽出液をポリマー系ミニカラムで精製し、LC/MS/MS により絶対検量線法で定量する。

定量限界 フルセトスルフロン：0.01～0.04 ppm

代謝物 B：0.01～0.04 ppm

代謝物 F：0.01～0.04 ppm

ただし、以下に示す代謝物の残留量については、親化合物に換算した値である。

(2) 作物残留試験結果

① 水稻

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（4例）において、0.22%粒剤を1回湛水散布（1.5kg/10a）したところ、散布後43～75日の最大残留量^{注1}は以下のとおりであった。

フルセトスルフロン：<0.01、<0.01、<0.01、<0.01 ppm

代謝物 B：<0.02、<0.02、<0.02、<0.02 ppm

代謝物 F：<0.02、<0.02、<0.02、<0.02 ppm

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（4例）において、0.22%粒剤を1回湛水散布（1.5kg/10a）したところ、散布後43～75日の最大残留量は以下のとおり

であった。

フルセトスルフロン：<0.04、<0.02、<0.04、<0.02 ppm

代謝物 B：<0.05、<0.03、<0.05、<0.03 ppm

代謝物 F：<0.05、<0.03、<0.05、<0.03 ppm

これらの試験結果の概要については、別紙 1 を参照。

注) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

(参考：平成 10 年 8 月 7 日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」)

7. ADI の評価

食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 24 条第 1 項の規定に基づき、平成 19 年 5 月 22 付け厚生労働省発食安第 0522002 号により食品安全委員会あて意見を求めたフルセトスルフロンに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：4.1 mg/kg 体重/day

(動物種) ラット

(投与方法) 混餌

(試験の種類) 繁殖試験

(期間) 2 世代

安全係数：100

ADI : 0.041 mg/kg 体重/day

8. 諸外国における状況

JMPR における毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されていない。

米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、いずれの国及び地域においても基準値が設定されていない。

9. 基準値案

(1) 残留の規制対象

フルセトスルフロン本体

作物残留試験において、フルセトスルフロン、代謝物 B 及び代謝物 F の分析が行われているが、いずれの残留量も定量限界未満であることから、規制対象として代謝物 B

及び代謝物Fを含めないこととした。

なお、食品安全委員会によって作成された食品健康影響評価においては、暴露評価対象物質としてフルセトスルフロンを設定している。

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のフルセトスルフロンが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量（理論最大1日摂取量(TMDI))のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。

	TMDI/ADI (%) ^{注)}
国民平均	0.4
幼小児 (1~6歳)	0.8
妊婦	0.3
高齢者 (65歳以上)	0.4

注) TMDI 試算は、基準値案×摂取量の総和として計算している。

フルセトスルフロン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【フルセトスルフロン/代謝物B/代謝物F】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
水稻 (玄米)	4	0.22%粒剤	湛水散布 1.5kg/10a	1回	<u>45</u> , 60, 75日	圃場A:<0.01/<0.02/<0.02
					<u>44</u> , 59, 75日	圃場B:<0.01/<0.02/<0.02
					<u>43</u> , 57, 68日	圃場C:<0.01/<0.02/<0.02
水稻 (稲わら)	4	0.22%粒剤	湛水散布 1.5kg/10a	1回	<u>45</u> , 60, 75日	圃場A:<0.04/<0.05/<0.05
					<u>44</u> , 59, 75日	圃場B:<0.02/<0.03/<0.03
					<u>43</u> , 57, 68日	圃場C:<0.04/<0.05/<0.05
						圃場D:<0.02/<0.03/<0.03

最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書(案)「フルセトスルフロン」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
米	0.05		申			<0.01, <0.01, <0.01, <0.01

(別紙3)

フルセトスルフロン推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$)

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
米	0.05	9.3	4.9	7.0	9.4
計		9.3	4.9	7.0	9.4
ADI比 (%)		0.4	0.8	0.3	0.4

TMDI : 理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

(参考)

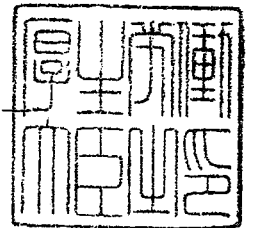
これまでの経緯

- | | | |
|-------|--------|--|
| 平成19年 | 5月 8日 | 農林水産省より農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼
(新規：水稻) |
| 平成19年 | 5月22日 | 厚生労働大臣より食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に
係る食品健康影響評価について要請 |
| 平成19年 | 5月24日 | 第191回食品安全委員会（要請事項説明） |
| 平成19年 | 6月15日 | 第12回農薬専門調査会総合評価第二部会 |
| 平成20年 | 3月31日 | 第20回農薬専門調査会総合評価第二部会 |
| 平成20年 | 6月 3日 | 第39回農薬専門調査会幹事会 |
| 平成20年 | 6月12日 | 食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表 |
| 平成20年 | 7月17日 | 第247回食品安全委員会（報告） |
| 平成20年 | 7月17日 | 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評
価について通知 |
| 平成20年 | 10月20日 | 薬事・食品衛生審議会へ諮問 |
| 平成20年 | 10月24日 | 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会 |

厚生労働省発食安第1204003号
平成 2 0 年 1 2 月 4 日

薬事・食品衛生審議会
会長 望月 正隆 殿

厚生労働大臣 舩添 要



諮 問 書

食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき、下記の事項について、貴会の意見を求めます。

記

次に掲げる農薬の食品中の残留基準設定について

フェンブコナゾール

平成20年12月18日

薬事・食品衛生審議会

食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会

農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会

農薬・動物用医薬品部会報告について

平成20年12月4日厚生労働省発食安第1204003号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくフェンブコナゾールに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

(別添)

フェンブコナゾール

1. 品目名：フェンブコナゾール (Fenbuconazole)

2. 用途：殺菌剤

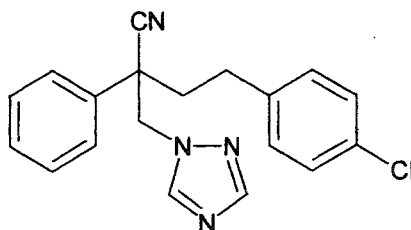
トリアゾール系殺菌剤である。作用機構は菌類の細胞膜を構成する主要成分であるエルゴステロールの生合成を阻害することにより菌類の生育を阻害すると考えられている。

3. 化学名：

(*RS*)-4-(4-chlorophenyl)-2-phenyl-2-(1*H*-1,2,4-triazole-1-ylmethyl)
butyronitrile (IUPAC)

α -[2-(4-chlorophenyl)ethyl]- α -phenyl-1*H*-1,2,4-triazol-1-propanenitrile
(CAS)

4. 構造式及び物性



分子式 $C_{19}H_{17}ClN_4$
分子量 336.83
水溶解度 3.77 mg/L (25°C)
分配係数 $\log P_{ow}=3.22$ (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方法は以下のとおり。

作物名となっているものについては、今回農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

(1) 国内における使用方法

① 22.0%フェンブコナゾールフロアブル

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	使用 方法	本剤及びフェンブ コナゾールを含む 農薬の総使用回数
りんご	赤星病	8000～	200～700L /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内
	うどんこ病	12000倍				
	黒星病	5000～ 12000倍				
	モニリア病	5000倍				
なし	黒星病	5000～ 12000倍		収穫7日前まで		
	赤星病	8000～ 12000倍				
	輪紋病					
もも	黒星病 灰星病	5000倍		収穫前日まで		4回以内
おうとう	灰星病					2回以内 (落花後は1回以内)
ネクタリン	黒星病 灰星病					4回以内
すもも	灰星病		2回以内			
うめ	黒星病		2回以内			
ぶどう	黒とう病 うどんこ病	8000倍	収穫30日前まで	3回以内		
茶	炭疽病	5000～	200～400L /10a	摘採7日前まで	2回以内	
	褐色円星病	8000倍				
	もち病 網もち病	5000倍				

② 12.5%フェンブコナゾール乳剤

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用 方法	本剤及び フェンブコナゾール を含む農薬の 総使用回数
てんさい	褐斑病	800～ 1000倍	100～200L /10a	収穫14日前まで	散布	4回以内

(2) 海外における使用方法

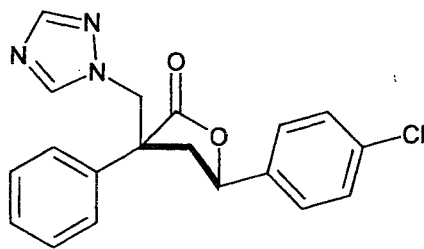
作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	使用 方法	使用回数
アーモンド	リンゴモニリア病	67~105 g/ha	収穫160日前まで	散布	3回以内
ブルーベリー	Mummy berry disease 先枯病 実腐病 うどんこ病	105 g/ha	収穫30日前まで		5回以内
かんきつ	褐斑病 そうか病 すすかび病等	140~280 g/ha	収穫当日まで	散布	3回以内
クランベリー	先枯病 実腐病	105~210 g/ha	収穫30日前まで		4回以内
らっかせい	斑点病	105~135 g/ha	収穫14日前まで		

6. 作物残留試験

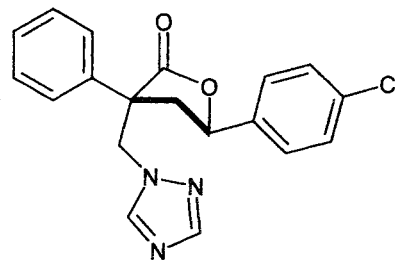
(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

- ・フェンブコナゾール
- ・シス/トランス-5-(4-クロロフェニル)-ジヒドロ-3-フェニル-3-(メチル-1*H*-1,2,4-トリアゾール-1-イル)-2-3*H*-フラノン
(ラクトンA体及びB体)



ラクトンA体



ラクトンB体

② 分析法の概要

試料をメタノールまたはアセトンで抽出後、酢酸エチルまたはジクロロメタンに転溶し、フロリジル又はシリカゲルカラムで精製後、NPDガスクロマトグラフで定量する。

なお、ラクトンA体及びB体の分析値はフェンブコナゾールに換算した値として示されている。

定量限界 0.005~0.02ppm

(2) 作物残留試験結果

① りんご

りんご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、22.0%フロアブルの8,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後14~30日の最大残留量^{註1}は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール : 0.068、0.124 ppm

ラクトンA体 : 0.006、0.008 ppm

ラクトンB体 : <0.005、<0.005 ppm

りんご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、22.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計3回散布(300, 900L/10a)したところ、散布後14~30日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、900L/10aで散布された試験は、適用範囲内で行われていない。

フェンブコナゾール : 0.090、0.411 ppm

ラクトンA体 : <0.005、0.008 ppm

ラクトンB体 : <0.005、<0.005 ppm

② なし

なし(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、22.0%フロアブルの8,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後14~30日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール : 0.078、0.164 ppm

ラクトンA体 : <0.005、<0.005 ppm

ラクトンB体 : <0.005、<0.005 ppm

なし(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、22.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール : 0.099、0.299 ppm

ラクトンA体 : 0.006、<0.005 ppm

ラクトンB体 : <0.005、<0.005 ppm

③もも

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、22.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計4回散布（500L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール：0.022、0.008 ppm

ラクトンA体：0.010、0.010 ppm

ラクトンB体：<0.005、<0.005 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、22.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計4回散布（500L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール：3.65、4.27 ppm

ラクトンA体：0.08、0.15 ppm

ラクトンB体：0.01、<0.01 ppm

④おうとう

おうとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、22.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計2回散布（500L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール：0.320、0.290 ppm

ラクトンA体：0.013、<0.005 ppm

ラクトンB体：0.008、<0.005 ppm

⑤ぶどう

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、22.0%フロアブルの8,000倍希釈液を計3回散布（400, 300L/10a）したところ、散布後30～60日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール：0.688、1.080 ppm

ラクトンA体：0.013、0.015 ppm

ラクトンB体：0.008、0.008 ppm

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、22.0%フロアブルの8,000倍希釈液を計3回散布（300L/10a）したところ、散布後30～60日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール：0.335、0.154 ppm

ラクトンA体：0.007、0.010 ppm

ラクトンB体：<0.005、<0.005 ppm

⑥茶

茶（荒茶）を用いた作物残留試験（2例）において、22.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール：2.21、3.50 ppm

ラクトンA体：0.23、0.17 ppm

ラクトンB体：0.05、0.04 ppm

茶（浸出液）を用いた作物残留試験（2例）において、22.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール：0.47、0.72 ppm

ラクトンA体：0.08、0.04 ppm

ラクトンB体：<0.02、<0.02 ppm

⑦ネクタリン

ネクタリン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、22.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計4回散布（400L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール：0.26、0.20 ppm

ラクトンA体：<0.01、<0.01 ppm

ラクトンB体：0.02、0.02 ppm

⑧すもも

すもも（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、22.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計4回散布（400L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール：0.12、0.02 ppm

ラクトンA体：<0.01、<0.01 ppm

ラクトンB体：<0.01、<0.01 ppm

⑨うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、22.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計2回散布（300～400L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール：0.66、0.44 ppm

ラクトンA体：<0.01、<0.01 ppm

ラクトンB体：<0.01、<0.01 ppm

⑩ てんさい

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（1例）において、10.0%乳剤の1,000倍希釈液を計4回散布（150L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール：0.06 ppm

ラクトンA体：<0.01 ppm

ラクトンB体：<0.01 ppm

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、12.5%乳剤の800倍希釈液を計4回散布（200L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

フェンブコナゾール：0.15、0.07 ppm

ラクトンA体：<0.01、<0.01 ppm

ラクトンB体：<0.01、<0.01 ppm

これらの試験結果の概要については、別紙1-1を参照。また、海外で実施された作物残留試験成績の結果の概要については、別紙1-2を参照。

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

7. 乳牛における残留試験

乳牛に対してフェンブコナゾール0、6.5、19.5、65ppmを含有する飼料を28日間にわたり摂食させ、牛乳及び筋肉についてはフェンブコナゾール、ラクトンA体及びB体並びにイミノラクトン体について、脂肪、肝臓及び腎臓については、上記に加えRH-7968を測定したところ、下記のとおりであった。なお、牛乳については、投与開始後1、4、7、10、14、21、24、28、31日目に搾乳したものを測定した。（定量下限：RH-7968 0.05ppm、RH-7968以外 0.010ppm）

イミノラクトン体：シス／トランス-5-（4-クロロフェニル）-ジヒドロ-3-フェニル-3-（1*H*-1, 2, 4-トリアゾール-1-イルメチル）-2-3*H*-フラニミン

RH-7968： α -（ヒドロキシメチル）- α -フェニル-4-クロロベンゼンブタンニトリル

上記の結果に関連して、JMPRでは肉牛及び乳牛における最大理論的飼料由来負荷（MTDB）^{注2}はそれぞれ2.5ppm、1ppmと評価している。また、米国においては乳牛、肉牛及び豚におけるMTDBはそれぞれ0.98ppm、1.83ppm、0.08ppmと評価して

いる。また、オーストラリアにおいては牛、羊及び豚へのMTDBを0.2ppmと評価している。

表. 組織中の最大残留 (ppm)

	6.5ppm 投与群	19.5ppm 投与群	65ppm 投与群
牛乳	<0.010	<0.010-0.019	<0.010
筋肉	<0.010-0.01	<0.010	<0.010-0.02
脂肪	<0.010	<0.010	<0.010-0.06
腎臓	<0.010	<0.010	<0.010
肝臓	0.04-0.09	0.10-0.20	0.14-0.68

注 2) 最大理論的飼料由来負荷 (Maximum Theoretical Dietary Burden: MTDB) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量のこと。飼料中残留濃度として表示される。

(参考: Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs)

8. 産卵鶏における残留試験

産卵鶏に対してフェンブコナゾール (0, 0.12, 0.34, 1.13ppm 相当) を28日間にわたり強制経口投与し、卵、大腿筋、胸筋及び脂肪についてはフェンブコナゾール、ラクトンA体及びB体並びにイミノラクトン体を、肝臓については上記に加えRH-7968を測定したところ最高投与群においていずれも<0.01ppmであった。また、鶏卵についても投与開始後1, 3, 7, 10, 14, 18, 21, 25, 28日に採卵し分析したところ、いずれも検出下限未満であった。(検出限界: 肝臓及び脂肪 0.05ppm、上記以外 0.01ppm)

上記の結果に関連して、JMPRではMTDBを0.1ppmとして、米国において家きんを0.09ppmとして、オーストラリアでは約0.1ppmと評価している。

9. ADIの評価

食品安全基本法 (平成15年法律第48号) 第24条第1項第1号の規定に基づき、平成20年2月12日付け厚生労働省発食安第0212001号により食品安全委員会あて意見を求めたフェンブコナゾールに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量 : 3.03 mg/kg 体重/day

(動物種) ラット

(投与方法) 混餌投与

(試験の種類/期間) 慢性毒性/発がん性併合試験/2年間

安全係数 : 100

ADI : 0.03 mg/kg 体重/day

10. 諸外国における状況

1997年にJMPRにおける毒性評価が行われ、ADIが設定されている。国際基準はバナナ、大麦等に設定されている。

米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国においてアーモンド、りんご等に、カナダにおいておうとう、プラム等に、オーストラリアにおいてバナナ、ネクタリン等に基準値が設定されている。

11. 基準値案

(1) 残留の規制対象

フェンブコナゾール本体

作物残留試験においてラクトンA体及びB体も分析対象とされているが、両化合物とも定量限界未満もしくはフェンブコナゾールに比べて低い値での検出であることから、ラクトンA体及びB体については、規制対象に含めないこととした。畜産物等についても農産物と同様にフェンブコナゾール本体を規制対象とすることとした。

なお、食品安全委員会によって作成された農薬評価書においても、暴露評価対象物質としてフェンブコナゾールを設定している。

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のフェンブコナゾールが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量（理論最大一日摂取量（TMDI））のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。

	TMDI / ADI (%) ^{注3)}
国民平均	10.4
幼小児 (1~6歳)	27.8
妊婦	9.7
高齢者 (65歳以上)	10.6

注3) TMDI 試算は、基準値案×摂取量の総和として計算している。高齢者及び妊婦については畜水産物の摂取量データがないため、国民平均の摂取量を参考とした（妊婦は一部の摂取量データのみ）。

フェンブコナゾール作物残留試験一覧表

農作物	試験圃 場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【フェンブコナゾールのみ】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
りんご (果実)	2	22.0% フロアブル	8,000倍散布 400L/10a	3回	14, 21, 30日 14, 21, 31日	圃場A:0.068 圃場B:0.124(3回、21日)
りんご (果実)	2	22.0% フロアブル	5,000倍散布 300, 900L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A:0.090 圃場B:0.411(＃)(3回、14日)
なし (果実)	2	22.0% フロアブル	8,000倍散布 400L/10a	3回	14, 21, 29日 14, 21, 30日	圃場A:0.078 圃場B:0.164(3回、30日)
なし (果実)	2	22.0% フロアブル	5,000倍散布 400L/10a	3回	7, 13, 21日 7, 14, 21日	圃場A:0.099 圃場B:0.299
もも (果肉)	2	22.0% フロアブル	5,000倍散布 500L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.022 圃場B:0.008
もも (果皮)	2	22.0% フロアブル	5,000倍散布 500L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:3.65 圃場B:4.27
おうとう (果実)	2	22.0% フロアブル	5,000倍散布 500L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.320(2回、3日) 圃場B:0.290(2回、3日)
ぶどう (果実)	2	22.0% フロアブル	8,000倍散布 400, 300L/10a	3回	30, 45, 60日	圃場A:0.688 圃場B:1.080
ぶどう (果実)	2	22.0% フロアブル	8,000倍散布 300L/10a	3回	30, 45, 59日 30, 45, 60日	圃場A:0.335 圃場B:0.154
茶 (荒茶)	2	22.0% フロアブル	5,000倍散布 200L/10a	3回	7, 14, 21日 7, 13, 21日	圃場A:2.21 圃場B:3.50
茶 (浸出液)	2	22.0% フロアブル	5,000倍散布 200L/10a	3回	7, 14, 21日 7, 13, 21日	圃場A:0.47 圃場B:0.72
ネクタリン (果実)	2	22.0% フロアブル	5,000倍散布 400L/10a	4回	1, 7, 14日	圃場A:0.26 圃場B:0.20
すもも (果実)	2	22.0% フロアブル	5,000倍散布 400L/10a	4回	1, 7, 14日	圃場A:0.12(4回、7日) 圃場B:0.02
うめ (果実)	2	22.0% フロアブル	5,000倍散布 300-400L/10a	2回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.66 圃場B:0.44(2回、3日)
てんさい (根部)	1	10.0%乳剤	1,000倍散布 150L/10a	4回	14, 21, 28日	圃場A:0.06
てんさい (根部)	2	12.5%乳剤	800倍散布 200L/10a	4回	14, 21, 28日	圃場A:0.15(4回、28日) 圃場B:0.07

(#) これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。
最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書「フェンブコナゾール」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

フェンブコナゾール海外作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
アーモンド (仁)	5	フロアブル (240g ai/L)	112g/ha 散布	3回	154日	圃場A:<0.01(3回、154日) (#)	
					200日	圃場B:<0.01(3回、200日)	
					161日	圃場C:<0.01(3回、161日)	
					152日	圃場D:<0.01(3回、161日)	
					圃場E:<0.01(3回、152日) (#)		
グレープフルーツ (果実全体)	9	フロアブル (240g ai/L)	280g/ha 散布	3回	0, 15, 26, 59日	圃場A:0.487	
					0日	圃場B:0.342	
						圃場C:0.190	
						圃場D:0.162	
						圃場E:0.123	
						圃場F:0.0976	
						圃場G:0.155	
						圃場H:0.157	
						圃場I:0.134	
グレープフルーツ (果実全体)	1	フロアブル (240g ai/L)	280g/ha 散布	3回	7日	圃場A:0.039	
オレンジ (果実全体)	16	フロアブル (240g ai/L)	280g/ha 散布	3回	0, 15, 26, 59日	圃場A:0.442	
					0日	圃場B:0.339	
						0, 15, 30, 60日	圃場C:0.518
						圃場D:0.178	
						圃場E:0.176	
						圃場F:0.304	
						圃場G:0.279	
						圃場H:0.187	
						圃場I:0.190	
						圃場J:0.166	
圃場K:0.147							
圃場L:0.659							
圃場M:0.170							
圃場N:0.300							
圃場O:0.120							
圃場P:0.125							
オレンジ (果実全体)	1	フロアブル (240g ai/L)	280g/ha 散布	3回	7日	圃場A:0.0488	
レモン (果実全体)	5	フロアブル (240g ai/L)	280g/ha 散布	3回	0日	圃場A:0.584	
						圃場B:0.831	
						圃場C:0.580	
						圃場D:0.516	
						圃場E:0.703	
ピーナッツ (種子)	13	フロアブル (240g ai/L)	140g/ha 散布	8回	14日	圃場A:<0.003(8回、14日) (#)	
					15日	圃場B:<0.003(8回、15日) (#)	
					14日	圃場C:0.035(8回、14日) (#)	
					15日	圃場D:<0.003(8回、14日) (#)	
					14日	圃場E:0.010(8回、15日) (#)	
						圃場F:<0.003(8回、14日) (#)	
						圃場G:0.009(8回、14日) (#)	
						圃場H:<0.003(8回、14日) (#)	
						圃場I:0.013(8回、14日) (#)	
						圃場J:0.011(8回、14日) (#)	
圃場K:0.008(8回、14日) (#)							
圃場L:<0.003(8回、14日) (#)							
15日	圃場M:0.048(8回、15日) (#)						

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)				
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数					
ブルーベリー (果実)	9	水和剤 (750g ai/L)	105g/ha 散布	5回	27日	圃場A:0.03(5回、27日) (#)				
					30日	圃場B:0.07 圃場C:0.03 圃場D:0.01				
					25日	圃場E:0.06(5回、25日) (#)				
					27日	圃場F:0.15(5回、27日) (#)				
					35日	圃場G:0.09				
					30日	圃場H:0.07 圃場I:0.06				
クランベリー (果実)	5	水和剤 (750g ai/L)	210g/ha 散布	5回	28日	圃場A:0.08(5回、28日) (#)				
					25日	圃場B:0.08(5回、25日) (#)				
					27日	圃場C:0.41(5回、27日) (#)				
					28日	圃場D:0.13(5回、28日) (#) 圃場E:0.14(5回、28日) (#)				
もも (果実)	10	フロアブル (240g ai/L)	112g ai/ha 散布 224g ai/ha 散布	7回	0, 3, 7日	圃場A:0.367(7回、0日) 圃場B:1.42(7回、3日) (#) 圃場C:0.505(7回、0日) 圃場D:0.429(7回、7日) (#)				
						112g ai/ha 散布 224g ai/ha 散布	9回	圃場E:0.189(9回、0日) (#) 圃場F:0.318(9回、0日) (#)		
								112g ai/ha 散布 224g ai/ha 散布	7回	圃場G:0.248(7回、0日) 圃場H:0.278(7回、0日) (#)
										112g ai/ha 散布 224g ai/ha 散布
			112g ai/ha 散布 224g ai/ha 散布	9回	0日			圃場A:0.116(9回、0日) (#) 圃場B:0.585(9回、0日) (#)		
					7回	0, 7, 14日	圃場C:0.278(7回、0日) 圃場D:1.18(7回、0日) (#)			
						10回	14日	圃場E:0.457(10回、14日) (#)		
				8回	0, 14日		圃場F:1.55(10回、0日) (#)			
0, 7, 14, 21日	圃場G:0.459 圃場H:1.35(8回、0日) (#)									
もも (果実)	4	フロアブル (240g ai/L)		140g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.525(6回、0日) (#) 圃場B:0.468(6回、0日) (#) 圃場C:0.553(6回、0日) (#) 圃場D:0.434(6回、0日) (#)			
		水和剤 (750g ai/L)								
もも (果実)	2	水和剤 (750g ai/L)	105g ai/ha 散布	1回	17日	圃場A:0.069(1回、17日) 圃場B:0.043(1回、17日)				
もも (果実)	4	水和剤 (750g ai/L)	138~145g ai/ha 散布	12回	0日	圃場A:0.410(12回、0日) (#) 圃場B:0.397(12回、0日) (#)				
				14回		圃場C:0.185(14回、0日) (#) 圃場D:0.254(14回、0日) (#)				
もも (果実)	2	フロアブル	140g ai/ha 散布	10回	0日	圃場A:0.376(10回、0日) (#) 圃場B:0.477(10回、0日) (#)				
		水和剤								
もも (果実)	5	フロアブル (240g ai/L)	3.6g ai/100L 散布	9回	1, 3, 7, 13日	圃場A:0.15(9回、1日) (#)				
			4.8g ai/100L 散布			圃場B:0.35(9回、1日) (#)				
			3.6g ai/100L 散布	4回	1, 3, 7, 14日	圃場C:0.21(4回、1日)				
			4.8g ai/100L 散布			圃場D:0.31(8回、1日) (#) 圃場E:0.48(8回、1日) (#)				
プラム (果実)	6	フロアブル (240g ai/L)	112g ai/ha 散布	6回	0, 3, 7日	圃場A:0.023 (6回、7日) 圃場B:0.027 (6回、7日) 圃場C:0.071 (6回、0日) 圃場D:0.077 (6回、0日)				
			224g ai/ha 散布							
			112g ai/ha 散布							
			224g ai/ha 散布							
			112g ai/ha 散布	9回	0, 2, 7日	圃場E:0.074 (9回、2日) (#) 圃場F:0.143 (9回、0日) (#)				
			224g ai/ha 散布							

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
プラム (果実)	2	フロアブル (240g ai/L)	112g ai/ha 散布	6回	0, 7, 14日	圃場A:0.037 (6回、0日) 圃場B:0.024 (6回、0日)
プラム (果実)	5	フロアブル (240g ai/L)	112g ai/ha 散布	8回	0, 7, 14日	圃場A:0.030 圃場B:0.072 (9回、6日) (#) 圃場C:0.040 圃場D:0.096 (6回、7日) 圃場E:0.032 (5回、15日)
				9回	0, 6, 14日	
				8回	0, 7日	
				6回	0, 7, 14日	
				5回	15日	
プラム (果実)	2	水和剤 (750g ai/L)	138~142g ai/ha 散布	13回	0日	圃場A:0.131 (13回、0日) (#) 圃場B:0.133 (13回、0日) (#)
プラム (果実)	1	フロアブル (240g ai/L)	3.6g ai/100L 散布	4回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.03
おうとう (果実)	6	フロアブル (240g ai/L)	112g ai/ha 散布	5回	0, 4, 7日	圃場A:0.202 (5回、0日) 圃場B:0.355 (5回、0日) (#) 圃場C:0.286 (5回、0日) 圃場D:0.381 (5回、3日) (#) 圃場E:0.333 圃場F:0.539 (6回、0日) (#)
			224g ai/ha 散布			
			112g ai/ha 散布			
			224g ai/ha 散布	6回	0, 3, 7日	
			112g ai/ha 散布			
			224g ai/ha 散布			
おうとう (果実)	8	フロアブル (240g ai/L)	112g ai/ha 散布	4回	14日	圃場A:0.144 (4回、14日) 圃場B:0.273 (4回、14日) (#) 圃場C:0.359 (5回、0日) 圃場D:0.511 (5回、0日) 圃場E:0.3071 (5回、0日) 圃場F:0.471 圃場G:0.427 圃場H:0.341
			224g ai/ha 散布			
			112g ai/ha 散布	5回	0, 7, 15日	
			112g ai/ha 散布	9回	0日	
			224g ai/ha 散布			
おうとう (果実)	2	水和剤 (750g ai/L)	139~141g ai/ha 散布	9回	0日	圃場A:0.261 (9回、0日) (#) 圃場B:0.248 (9回、0日) (#)
おうとう (果実)	2	フロアブル (240g ai/L)	3.6g ai/100L 散布	5回	1, 3, 5, 7日	圃場A:0.15 圃場B:0.11
			4.8g ai/100L 散布			
アプリコット (果実)	4	フロアブル (240g ai/L)	140g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.157 (6回、0日) (#) 圃場B:0.268 (6回、0日) (#) 圃場C:0.214 (6回、0日) (#) 圃場D:0.254 (6回、0日) (#)
		水和剤 (750g ai/L)				
ネクタリン (果実)	8	フロアブル (240g ai/L)	5g ai/100L 散布	11回	1, 3, 5, 7日	圃場A:0.15 (11回、1日) (#) 圃場B:0.37 (10回、0日) (#) 圃場C:0.41 (8回、1日) (#) 圃場D:0.58 (8回、1日) (#) 圃場E:0.25 圃場F:0.19 (7回、1日) (#) 圃場G:0.02 (8回、167日) (#) 圃場H:0.06 (8回、167日) (#)
			10g ai/100L 散布			
			5g ai/100L 散布	8回		
			10g ai/100L 散布			
			3.6g ai/ha 散布	5回		
				7回		
			5g ai/100L 散布	8回		
10g ai/100L 散布						

(#) これらの作物残留試験は、作物残留試験が実施された国の使用方法の範囲内で試験が行われていない。
最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

農産物名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
小麦	0.1	0.1		0.1	0.1	アメリカ
大麦	0.2	0.2		0.2		
ライ麦	0.1	0.1		0.1		
らっかせい	0.1	0.1			0.1	アメリカ 【<0.003(#)~ 0.048(#)(n=13)】
てんさい	0.5		申		0.3	アメリカ 0.06/0.15(&), 0.07(&)
きゅうり(ガーキンを含む)	0.2	0.2		0.2		
かぼちゃ(スカッシュを含む)	0.05	0.05		0.05		
メロン類果実	0.2	0.2		0.2		
まくわうり	0.2	0.2		0.2		
みかん	1.0	1.0			1.0	アメリカ 【米国のレモン、オレンジ及びグレープフルーツのデータを参照】
なつみかんの果実全体	1.0	1.0			1.0	アメリカ 【米国のレモン、オレンジ及びグレープフルーツのデータを参照】
レモン	1.0	1.0			1.0	アメリカ 【0.516~0.803 (n=5)】
オレンジ(ネーブルオレンジを含む)	1.0	1.0			1.0	アメリカ 【0.120~0.659 (n=16)】
グレープフルーツ	1.0	1.0			1.0	アメリカ 【0.0976~0.487(n=9)】
ライム	1.0	1.0			1.0	アメリカ 【米国のレモン、オレンジ及びグレープフルーツのデータを参照】
その他のかんきつ類果実	1.0	1.0			1.0	アメリカ 【米国のレモン、オレンジ及びグレープフルーツのデータを参照】
りんご	1	1	○	0.1	0.4	アメリカ 0.068, 0.124, 0.090, 0.411(#\$) 0.078, 0.164, 0.099, 0.299(\$)
日本なし	0.7	0.7	○	0.1		
西洋なし	0.7	0.7	○	0.1		
マルメロ	0.1	0.1		0.1		
びわ	0.1	0.1		0.1		
もも	0.5	0.5	○	0.5	1.0	アメリカ 0.022, 0.008 【0.043~ 1.55(#)(n=20)】
ネクタリン	1.0	1.0	○		1.0	アメリカ 0.26, 0.20 【米国の核果果実のデータを参照】
あんず(アブリコットを含む)	0.5	0.5		0.5	1.0	アメリカ 【0.157(#)~ 0.268(#)(n=4)】
すもも(プルーンを含む)	1.0	1.0	○		1.0	アメリカ 0.12(#), 0.02(#) 【0.023~ 0.143(#)(n=15)】
うめ	2	2	○			0.66, 0.44
おうとう(チェリーを含む)	1	1	○	1	1.0	アメリカ 0.320, 0.290 【0.144(#)~ 0.539(#)(n=16)】
ブルーベリー	0.3	0.3			0.3	アメリカ 【0.01~0.15(#)(n=9)】 【0.01(#)~ 0.07(#)(n=5)】
クランベリー	0.5	0.5			0.5	アメリカ
ハuckleベリー	0.3	0.3			0.3	アメリカ 【米国のブルーベリーのデータを参照】
その他のベリー類果実	0.3	0.3			0.3	アメリカ 【米国のブルーベリーのデータを参照】

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
ぶどう	3	3	○	1	1.0 アメカ	0.688, 1.080(\$), 0.355, 0.154
バナナ	0.05	0.05		0.05	0.5 オーストラリア	
ひまわりの種子	0.05	0.05		0.05		
なたね	0.05	0.05		0.05		
ペカン	0.05	0.05		0.05	0.05 アメカ	【<0.01(n=5)】
アーモンド	0.05	0.05			0.05 アメカ	
茶	10	10	○			2.21, 3.50(\$)
その他のスパイス	1.0	1.0				
牛の筋肉	0.05	0.05		0.05	0.01 オーストラリア	
豚の筋肉	0.01	0.01			0.01 オーストラリア	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉	0.01	0.01			0.01 オーストラリア	
牛の脂肪	0.05	0.05		0.05		
牛の肝臓	0.05	0.05		0.05	0.05 アメカ	
豚の肝臓	0.01	0.01			0.01 オーストラリア	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.05	0.05			0.05 アメカ	
牛の腎臓	0.05	0.05		0.05	0.05 アメカ	
豚の腎臓	0.01	0.01			0.01 オーストラリア	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.05	0.05			0.05 アメカ	
牛の食用部分	0.05	0.05		0.05	0.05 アメカ	
豚の食用部分	0.01	0.01			0.01 オーストラリア	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用	0.05	0.05			0.05 アメカ	
乳	0.05	0.05		0.05	0.01 オーストラリア	
鶏の筋肉	0.05	0.05		0.05	0.01 オーストラリア	
その他の家さんの筋肉	0.05	0.05		0.05	0.01 オーストラリア	
鶏の脂肪	0.05	0.05		0.05		
その他の家さんの脂肪	0.05	0.05		0.05		
鶏の肝臓	0.05	0.05		0.05	0.01 オーストラリア	
その他の家さんの肝臓	0.05	0.05		0.05	0.01 オーストラリア	
鶏の腎臓	0.05	0.05		0.05	0.01 オーストラリア	
その他の家さんの腎臓	0.05	0.05		0.05	0.01 オーストラリア	
鶏の食用部分	0.05	0.05		0.05	0.01 オーストラリア	
その他の家さんの食用部分	0.05	0.05		0.05	0.01 オーストラリア	
鶏の卵	0.05	0.05		0.05	0.01 オーストラリア	
その他の家さんの卵	0.05	0.05		0.05	0.01 オーストラリア	

【】で示した結果等については、海外で実施された作物残留試験成績を示した。

(\$)で示した作物残留試験成績は、作物残留試験成績のばらつきを考慮し、最大残留値を基準値策定の根拠とした。

(#)で示した作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

(&)で示した作物残留試験は、試験内容の違いを考慮し、この印をつけた試験結果を基準値策定の根拠とした。

(別紙3)

フェンブコナゾール推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$)

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
小麦	0.1	11.7	8.2	12.3	8.3
大麦	0.2	1.2	0.0	0.1	0.7
ライ麦	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
らつかせい	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1
てんさい	0.5	2.3	1.9	1.7	2.0
きゅうり (ガーキンを含む)	0.2	3.3	1.6	2.0	3.3
かぼちや (スカッシュを含む)	0.05	0.5	0.3	0.3	0.6
メロン類果実	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1
まくわうり	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
みかん	1.0	41.6	35.4	45.8	42.6
なつみかんの果実全体	1.0	0.1	0.1	0.1	0.1
レモン	1.0	0.3	0.2	0.3	0.3
オレンジ (ネーブルオレンジを含む)	1.0	0.4	0.6	0.8	0.2
グレープフルーツ	1.0	1.2	0.4	2.1	0.8
ライム	1.0	0.1	0.1	0.1	0.1
その他のかんきつ類果実	1.0	0.4	0.1	0.1	0.6
りんご	1	35.3	36.2	30.0	35.6
日本なし	0.7	3.6	3.1	3.7	3.6
西洋なし	0.7	0.1	0.1	0.1	0.1
マルメロ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
びわ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
もも	0.5	0.3	0.4	2.0	0.1
ネクタリン	1.0	0.1	0.1	0.1	0.1
アズ (アプリコットを含む)	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
すもも (プルーンを含む)	1.0	0.2	0.1	1.4	0.2
うめ	2	2.2	0.6	2.8	3.2
おうとう (チェリーを含む)	1	0.1	0.1	0.1	0.1
ブルーベリー	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
クランベリー	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
ハックルベリー	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のベリー類果実	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
ぶどう	3	17.4	13.2	4.8	11.4
バナナ	0.05	0.6	0.6	0.4	0.9
ひまわりの種子	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
なたね	0.05	0.4	0.3	0.4	0.3
ペカン	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
アーモンド	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
茶	10	30.0	14.0	35.0	43.0
その他のスパイス	1.0	0.1	0.1	0.1	0.1
陸棲哺乳類の肉類	0.05	2.9	1.6	3.0	2.9
陸棲哺乳類の乳類	0.05	7.1	9.9	9.2	7.1
家禽の肉類	0.05	1.0	0.9	0.8	1.0
家禽の卵類	0.05	2.0	1.5	2.0	2.0
計		166.7	131.9	162.0	171.6
ADI比 (%)		10.4	27.8	9.7	10.6

TMDI: 理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

高齢者及び妊婦については畜水産物の摂取量データがないため、国民平均の摂取量を参考とした。

(妊婦は一部の摂取量データのみ)

(参考)

これまでの経緯

- 平成13年 4月26日 初回農薬登録
- 平成17年 1月20日 農薬登録申請（茶に係る適用拡大申請）
- 平成17年11月29日 残留基準値の告示
- 平成18年 2月27日 厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
- 平成18年 5月18日 食品安全委員会（要請事項説明）
- 平成18年 7月18日 厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
- 平成18年 7月20日 食品安全委員会（要請事項説明）
- 平成18年10月10日 第1回食品安全委員会農薬専門調査会確認評価第一部会
- 平成18年10月16日 第5回農薬専門調査会幹事会
- 平成18年12月25日 第2回食品安全委員会農薬専門調査会確認評価第一部会
- 平成19年 2月19日 第11回農薬専門調査会幹事会
- 平成19年 3月 1日 食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表
- 平成19年 4月26日 食品安全委員会（報告）
- 平成19年 4月26日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
- 平成19年 5月21日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会へ諮問
- 平成19年 5月25日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
- 平成19年 6月22日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
- 平成19年 8月 6日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
- 平成19年11月12日 薬事・食品衛生審議会から答申
- 平成19年12月12日 残留基準の告示
- 平成20年 1月30日 農林水産省より厚生労働省へ適用拡大申請に係る連絡（てんさい）
- 平成20年 2月12日 厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
- 平成20年 2月14日 食品安全委員会（要請事項説明）
- 平成20年 6月24日 第40回農薬専門調査会幹事会
- 平成20年 7月 3日 食品安全委員会（報告）
- 平成20年 7月 3日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
- 平成20年12月 4日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会へ諮問
- 平成20年12月 9日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

●薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

青木 宙	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授
井上 松久	北里大学副学長
○大野 泰雄	国立医薬品食品衛生研究所副所長
尾崎 博	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
加藤 保博	財団法人残留農薬研究所理事
斉藤 貢一	星薬科大学薬品分析化学教室准教授
佐々木 久美子	元国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長
志賀 正和	元農業技術研究機構中央農業総合研究センター虫害防除部長
豊田 正武	実践女子大学生生活科学部生活基礎化学研究室教授
松田 りえ子	国立医薬品食品衛生研究所食品部部長
山内 明子	日本生活協同組合連合会組織推進本部 本部長
山添 康	東北大学大学院薬学研究科医療薬学講座薬物動態学分野教授
吉池 信男	青森県立保健大学健康科学部栄養学科教授
由田 克士	国立健康・栄養研究所栄養疫学プログラム国民健康・栄養調査プロジェクトリーダー
鱒渕 英機	大阪市立大学大学院医学研究科都市環境病理学教授

(○：部会長)

答申（案）

フェンブコナゾール

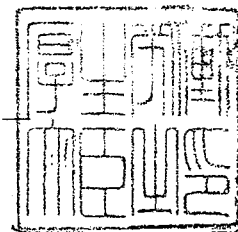
食品名	残留基準値 ppm
てんさい	0.5

厚生労働省発食安第0918003号

平成 20 年 9 月 18 日

薬事・食品衛生審議会
会長 望月 正隆 殿

厚生労働大臣 舩添 要



諮 問 書

食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき、下記の事項について、貴会の意見を求めます。

記

次に掲げる農薬の食品中の残留基準設定について

チアメトキサム

平成20年12月18日

薬事・食品衛生審議会

食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会

農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会

農薬・動物用医薬品部会報告について

平成20年9月18日厚生労働省発食安第0918003号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくチアメトキサムに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

(別添)

チアメトキサム

1. 品目名：チアメトキサム (Thiamethoxam)

2. 用途：殺虫剤

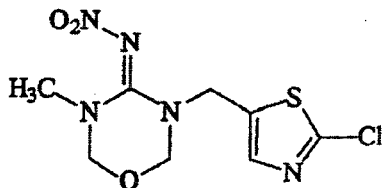
ネオニコチノイド系殺虫剤である。昆虫中枢神経系のニコチン性アセチルコリン受容体に作用を及ぼすと考えられている。

3. 化学名

(*EZ*)-3-(2-chloro-1,3-thiazol-5-ylmethyl)-5-methyl-1,3,5-oxadiazinan-4-ylidene(nitro)amine (IUPAC)

3-[(2-chloro-5-thiazolyl)methyl]tetrahydro-5-methyl-*N*-nitro-4*H*-1,3,5-oxadiazin-4-imine (CAS)

4. 構造式及び物性



分子式 $C_8H_{10}ClN_5O_3S$

分子量 291.7

水溶解度 4.1g/L (25°C)

分配係数 $\log_{10}Pow = -0.13$ (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用法は以下のとおり。

作物名、使用時期、チアメトキサムを含む農薬の総使用回数となっているものについては、今回農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

(1) 10%チアメトキサム水溶剤（顆粒水溶剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
未成熟 とうもろこし	アブラムシ類	3000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
だいず いんげんまめ							3 回以内 (は種前の塗沫処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
ばれいしょ				テントウムシダマシ類	2000 倍		25L/10a
	アブラムシ類	750 倍					
てんさい	テンサイトビハムシ	50～ 200 倍	ペーパーポット 1 冊当たり 1L (3L/m ²)	定植前	1 回	苗床 灌注	1 回
	カメノコハムシ	50 倍					
	アブラムシ類	100 倍					
	テンサイモグリハナバエ	100～ 200 倍					
だいこん	アブラムシ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	3 回以内 (は種前の作条混和は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
キャベツ		3000 倍		収穫 3 日前 まで	3 回以内		4 回以内 (粒剤の処理及び 水溶剤の灌注は 合計 1 回以内、 水溶剤及び液剤の 散布は合計 3 回以内)
		セル成型 育苗トレイ (30×60 cm、 使用土壌 約 3～4L) 1 箱当たり 0.5L	100 倍	育苗期後半	1 回	灌注	
はくさい	アブラムシ類	3000 倍	100～ 300L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (粒剤の処理及び 水溶剤の灌注は合計 1 回以内、散布は 3 回以内)

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	アブラムシ類	3000倍	100～ 300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、 散布は3回以内)
カリフラワー				収穫7日前まで			
非結球 あぶらな科 葉菜類 (こまつな、ケール、 チンゲンサイを除く)	2000倍	2000倍		収穫3日前 まで	2回以内		2回以内
こまつな							3回以内 (は種時の作条混和は1回以内、 は種後は2回以内)
チンゲンサイ							3回以内 (定植時の作条混和は1回以内、 は種後は2回以内)
レタス							3回以内 (粒剤の処理は1回以内、 散布は2回以内)
ねぎ	ネギハモグリバエ	1000～ 2000倍		収穫3日前まで	3回以内		4回以内 (は種時及び植付時の作条混和は 合計1回以内、 散布は3回以内)
	ネギアザミウマ	2000倍		収穫14日前まで			
収穫7日前まで							
収穫3日前まで							
にら	ネギアザミウマ	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内		
アスパラガス							
わけぎ	ネギハモグリバエ	2000倍	収穫3日前まで	2回以内	4回以内 (植付時の作条混和は1回以内、 植付後は3回以内)		
トマト	コナジラミ類	3000倍	収穫前日まで			2回以内	4回以内 (育苗期の株元散布及び 定植時の植穴処理は合計 1回以内、散布は3回以内)
ミニトマト							
なす	アブラムシ類	3000倍	2000倍	収穫前日まで	3回以内	4回以内 (育苗期の株元散布及び 定植時の植穴処理は合計 1回以内、散布は3回以内)	
	コナジラミ類						
	ミミキイロアザミウマ マメハモグリバエ						

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
ピーマン	ミナキイロザミカ	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時の植穴処理は1回以内、 散布は3回以内)
とうがらし類	アブラムシ類 コナカイガラムシ類 マメハモグリバエ	3000倍					
ししとう							
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類	3000倍					
すいか	ミナキイロザミカ	2000倍					
食用へちま	アブラムシ類	3000倍					
にがうり	ワタアブラムシ	2000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	3回以内	3回以内	
メロン	アブラムシ類	3000倍	150～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	4回以内 (定植時の植穴処理は1回以内、 散布は3回以内)	
ほうれんそう	アブラムシ類	2000倍	100～300L/10a	収穫3日前まで	2回以内	3回以内 (は種時の作条混和は1回以内、 散布後は2回以内)	
オクラ				収穫前日まで	3回以内	3回以内	
さやいんげん							
えだまめ	アブラムシ類	3000倍		収穫7日前まで	2回以内	3回以内 (は種前の塗沫処理は1回以内、 は種後は2回以内)	
うこぎ				収穫3日前まで		2回以内	
エンサイ		2000倍		収穫14日前まで	3回以内	3回以内	

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
みょうが (花穂)	コナカイガラムシ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布 但し花穂の発生 期にはマルチフ ィルム被覆によ り散布液が直接 花穂に飛散しな い状態で使用する。	3 回以内
みょうが (茎葉)				みょうが(花穂)の 収穫前日まで 但し花穂を収穫 しない場合にあって は開花期終了まで			
モロヘイヤ				ネギアザミウマ 収穫7日前 まで			
かんきつ	ゴマダラカミキリ成虫	4000 倍	200～ 700L/10a	収穫14日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
	アブラムシ類	3000 倍					
	コナカイガラムシ類 ミカンハモグリガ コアオハナムグリ ケシキスイ類	2000～ 3000 倍					
	アザミウマ類 ロウムシ類 カメムシ類 ミカンバエ ミカンキジラミ	2000 倍					
	アブラムシ類 ギンモンハモグリガ キンモンホソガ	2000～ 3000 倍					
りんご	シンクイムシ類 コナカイガラムシ類 カメムシ類	2000 倍	200～ 700L/10a	収穫7日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
なし	アブラムシ類	3000 倍		収穫前日 まで			

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数					
もも	アブラムシ類	3000倍	200～ 700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内					
	モモハモグリガ	2000～ 3000倍										
	シンクイムシ類 シロアザミウマ カメムシ類	2000倍										
小粒核果類 (うめを除く)	アブラムシ類	2000～ 3000倍		収穫7日前まで	2回以内		散布	2回以内				
うめ												
おうとう	カメムシ類	2000倍		収穫前日まで	2回以内				散布	2回以内		
	サトウハチロー											
いちじく	アザミウマ類	2000～ 3000倍		収穫7日前まで	2回以内						散布	2回以内
ぶどう	コナカイガラムシ類 チャノキアザミウマ											
		フタテンヒメコバイ		2000～ 3000倍								
かき	アザミウマ類 カメムシ類 コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内						
バナナ	バナナツヤゾウムシ											
マンゴー	アザミウマ類		収穫14日前まで	2回以内		散布						
アセロラ	アブラムシ類						収穫7日前まで					
グアバ (果実)	パンジロウツノ エグリヒメハマキ		2000～ 3000倍	摘採7日前まで			1回	散布				
茶	チャノキアザミウマ											
	チャノドクヒメコバイ	200～ 3000倍										
	コミカンアブラムシ ツマゴロアサミカ	3000倍										
セージ	コナジラミ類	2000倍	100～ 300L/10a	収穫21日前まで			3回以内		3回以内			

(2) 0.5%チアメトキサム粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数		
水稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	穂揃期	1回	散布	4回以内 (移植後は3回以内)		
かんしょ	アブラムシ類	6kg/10a	育苗期		株元散布	1回		
	コガネムシ類	6~9kg/10a	植付時		作条混和			
さといも	アブラムシ類	6kg/10a				4回以内 (植付時の作条混和は1回以内、植付後は3回以内)		
ばれいしょ		3~6kg/10a						
こんにゃく	アブラムシ類	6kg/10a	培土時 (但し、 出芽前まで)		株元散布		1回	
だいこん		4kg/10a	は種時		作条混和	3回以内 (は種前の作条混和は1回以内、散布は2回以内)		
キャベツ		セル成型育苗トレイ (30×60 cm、 使用土壌約3~4L) 1箱当り 30g 株当り 1~2g	育苗期 後半		散布	4回以内 (粒剤の処理及び水溶剤 の灌注は合計1回以内、 水溶剤及び液剤の 散布は合計3回以内)		
	株当り 2g						定植時	株元散布
	ハイマダラノメイガ						育苗期 後半	株元散布
		アオムシ	株元散布					
	コナガ	培土 1L 当たり 15g	は種前		床土混和			
はくさい	アオムシ	株当り 2g	育苗期 後半		株元散布	4回以内 (粒剤の処理及び水溶剤 の灌注は合計1回以内、 散布は3回以内)		
	コナガ						培土 1L 当たり 15g	は種前
	こまつな	アブラムシ類	株当り 1~2g	育苗期 後半			株元散布	
6kg/10a					は種時	作条混和		3回以内 (は種時の作条混和は1回以内、は種後は2回以内)

(2) 0.5%チアメトキサム粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
チンゲンサイ	アブラムシ類 ハモグリバエ類	6kg/10a	定植時	1回	作条混和	3回以内 (定植時の作条混和は1回以内、散布は2回以内)
ブロッコリー	アオムシ コナガ ハイダラノメイガ	株当たり 2g	育苗期 後半		株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、散布は3回以内)
カリフラワー	アブラムシ類	株当たり 0.5g				3回以内 (粒剤の処理は1回以内、散布は2回以内)
レタス	ナモグリバエ		培土 1L 当たり 15g		床土混和	
非結球レタス	アブラムシ類	株当たり 0.5g	育苗期 後半		株元散布	1回
	ナモグリバエ	培土 1L 当たり 15g	は種前		床土混和	
ねぎ	ネギアザミウマ	6kg/10a	は種時		作条混和	4回以内 (は種時及び植付時の作条混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	ネギハモグリバエ	6~9kg/10a	植付時			
わけぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	6kg/10a			4回以内 (植付時の作条混和は1回以内、植付後は3回以内)	
あさつき	1回					
セロリ	ナモグリバエ	株当たり 2g	鉢上時	2回以内	土壌混和	2回以内 (鉢上時の土壌混和は1回以内、定植時の植穴処理は1回以内)
			定植時		植穴処理	
トマト	ハモグリバエ類	株当たり 1~2g	育苗期 後半	1回	株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は3回以内)
	コナジラミ類	株当たり 1g				
ミニトマト	ハモグリバエ類	株当たり 1~2g	定植時	植穴処理	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は2回以内)	

(2) 0.5%チアメトキサム粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
なす	ミナキイロアザミウマ マメハモグリバエ コナジラミ類	株当たり 1g	定植時	1回	植穴処理	4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の植穴処 理は合計1回以内、 散布は3回以内)
	アブラムシ類		育苗期 後半		株元散布	
ピーマン	ミナキイロアザミウマ	株当たり 2g	定植時		植穴処理	4回以内 (定植時の植穴処理は 1回以内、 散布は3回以内)
とうがらし類	アブラムシ類	株当たり 1g				
きゅうり	コナジラミ類 トマトハモグリバエ					
	すいか	アブラムシ類				
メロン	ハモグリバエ類 アブラムシ類 ミナキイロアザミウマ	株当たり 1g				
	ほうれんそう	アブラムシ類	6kg/10a		は種時	作条混和
れんこん	クワイクビリアブラムシ	収穫14日前 まで		3回以内	湛水散布	3回以内
いちご	アブラムシ類	株当たり 1g	定植時	2回以内	植穴散布	2回以内

(3) 2.0%チアメトキサム粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5L) 1箱当たり 50 g	移植前 3日 ～移植当日	1回	育苗箱中の 苗の上から 均一に散布する	4回以内 (移植後は 3回以内)

(4) 21.4%チアメトキサム水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類	5000倍	100~150 L/10a	収穫21日 前まで	2回以内	散布	4回以内 (移植後は 3回以内)

(5) 30.0%チアメトキサム水和剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
だいず	アブラムシ類 タネバエ	乾燥種子 1kg 当り 原液 6mL	は種前	1回	塗沫処理	3回以内 (は種前の塗沫処理は 1回以内、 は種後は2回以内)
えだまめ	ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ					
いんげんまめ	アブラムシ類					
あずき	タネバエ					1回

(6) 10.0%チアメトキサム・5%ルフェヌロン水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	ルフェヌロンを含む農薬の総使用回数
みかん	チャノキイロアザミウマ アゲハ類 ミカンハモグリガ ミカンサビダニ	2000~ 3000倍	200~700 L/10a	収穫14日 前まで	3回 以内	散布	3回以内	3回以内
かんきつ (みかんを 除く)	ゴマダラカミキリ成虫	2000倍			1回			
	チャノキイロアザミウマ アゲハ類 ミカンハモグリガ ミカンサビダニ							
りんご	クワコナカイガラムシ ハマキムシ類 シンクイムシ類 ギンモンハモグリガ キンモンホソガ アブラムシ類	2000~ 3000倍			2回 以内		2回以内	3回以内
茶	チャノホソガ チャノミドリヒメコバイ チャノキイロアザミウマ ヨモギエダシヤク チャハマキ チャノコクモンハマキ	2000倍	200~400 L/10a	摘採7日 前まで	1回		1回	1回

(7) 0.005%チアメトキサム液剤

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	チアメトキサムを 含む農薬の 総使用回数
きゅうり	アブラムシ類	原液	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植前の植穴処理は 1回以内、 散布は2回以内)
	コナジラミ類					4回以内 (育苗期の株元散布及び 定植時の植穴処理は 合計1回以内、 散布は3回以内)
アブラムシ類						4回以内 (定植前の植穴処理は 1回以内、 散布は3回以内)
	ピーマン					4回以内 (粒剤の処理及び 水溶剤の灌注は 合計1回以内、 水溶剤及び液剤の散布は 合計3回以内)
キャベツ	コナカイガラムシ類		収穫3日前 まで	3回以内		3回以内
かんきつ	アブラムシ類		収穫14日前 まで			2回以内
うめ	アブラムシ類		収穫7日前 まで	2回以内		

(8) 0.0005%エマメクチン安息香酸塩・0.005%チアメトキサム・0.005%ジフェノコナゾール液剤

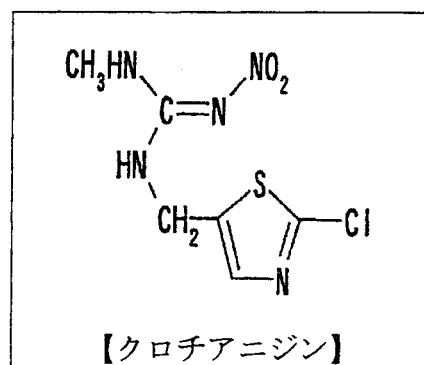
作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	エマメクチン安息香酸塩を含む農薬の総使用回数	ジフェノコナゾールを含む農薬の総使用回数			
トマト	アブラムシ類 葉かび病	原液	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内(育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は3回以内)	5回以内	3回以内			
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類 うどんこ病			2回以内							
キャベツ	アオムシ		収穫14日前まで	3回以内					4回以内(粒剤の処理及び水溶剤の灌注は合計1回以内、水溶剤および液剤の散布は合計3回以内)	3回以内	3回以内
いちご	ハダニ類 うどんこ病		収穫前日まで	2回以内					4回以内(定植時の植穴処理は2回以内、散布は2回以内)	2回以内	3回以内

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

- ・ チアメトキサム
- ・ (E)-1-(2-クロロ-1,3-チアゾール-5-イルメチル)-3-メチル-2-ニトログアニジン
(代謝物 CGA322704 (以下、クロチアニジン))



② 分析法の概要

含水アセトンで抽出、アセトンを留去後顆粒状多孔性ケイソウ土カラムおよびカートリッジカラムで精製し、高速液体クロマトグラフで定量する。

定量限界 チアメトキサム：0.005～0.2 ppm

クロチアニジン：0.005～0.2 ppm

(2) 作物残留試験結果

① 水稲

水稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）したところ、散布後125、146日の最大残留量^{※1}は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

水稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）したところ、散布後125、146日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.04、<0.04 ppm

クロチアニジン：<0.04、<0.04 ppm

水稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（1.5kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、施用後20、21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{※2}

チアメトキサム：0.027、0.024 ppm

クロチアニジン：0.029、0.011 ppm

水稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（1.5kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、施用後20、21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.06、0.08 ppm

クロチアニジン：<0.04、<0.04 ppm

水稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布したところ、施用後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.078、0.045 ppm

クロチアニジン：0.078、0.026 ppm

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布したところ、施用後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.27、0.28 ppm

クロチアニジン：0.04、<0.04 ppm

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（6kg/10a）及び21%フロアブルの5000倍希釈液を2回散布したところ、施用後21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.045、0.070 ppm

クロチアニジン：0.054、0.046 ppm

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（6kg/10a）及び21%フロアブルの5000倍希釈液を2回散布したところ、施用後21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.50、0.26 ppm

クロチアニジン：0.04、0.02 ppm

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、8%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）したところ、散布後122、134日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、0.008 ppm

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、8%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）したところ、散布後122、134日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.04、0.06 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、8%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（6kg/10a）及び6.5%フロアブルの1000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、施用後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.096、0.086 ppm

クロチアニジン：0.064、0.076 ppm

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、8%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（6kg/10a）及び6.5%フロアブルの1000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、施用後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：2.98、1.10 ppm

クロチアニジン：0.11、0.08 ppm

②とうもろこし

未成熟とうもろこし（生食用子実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（200L/10a、300L/10a）したところ、散布後7～42日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

③大豆

大豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（150L/10a、300L/10a）したところ、散布後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

大豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、35%フロアブル（12mL/1kg種子）を1回塗沫処理、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回株元処理及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a、300L/10a）を2回散布したところ、施用後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

④小豆

小豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、30%フロアブル（6mL/1kg種子）を1回塗沫処理したところ、施用後126、143日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

小豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、30%フロアブル（6mL/1kg種子）1回塗沫処理及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（150L/10a、300L/10a）

を2回散布したところ、施用後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.014、0.022 ppm

クロチアニジン：0.008、0.018 ppm

⑤いんげん

いんげん（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.012、<0.005 ppm

クロチアニジン：0.049、<0.005 ppm

いんげん（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、35%フロアブル（12mL/1kg 種子）を1回塗沫処理、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回使用及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、175-200L/10a）を3回散布したところ、施用後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.01、<0.01 ppm

クロチアニジン：0.01、<0.01 ppm

⑥ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条土壌混和（9kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a）を3回散布したところ、施用後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、0.100 ppm

クロチアニジン：<0.005、0.020 ppm

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回作条土壌混和、および10%顆粒水溶剤の750倍希釈液（25L/10a）を3回散布したところ、施用後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.02、<0.01 ppm

クロチアニジン：0.02、<0.01 ppm

⑦さといも

さといも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回植穴処理及び1回株元散布したところ、散布後30~45日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.14、0.039 ppm

クロチアニジン：<0.01、<0.01 ppm

さといも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a）を2回散布したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.022、<0.01 ppm

クロチアニジン：<0.01、<0.01 ppm

さといも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回植穴処理及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.038、<0.01 ppm

クロチアニジン：<0.01、<0.01 ppm

⑧かんしょ

かんしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条土壌混和（9kg/10a）したところ、散布後112、117日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

かんしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤（9kg/10a、6kg/10a）を作条土壌混和处理を1回及び株元土壌混和处理を1回行ったところ、施用後21～42日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.012、0.006 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑨こんにゃくいも

こんにゃくいも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回株元土壌混和（6kg/10a）したところ、散布後132～159日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.01、0.02 ppm

クロチアニジン：<0.01、<0.01 ppm

⑩てんさい

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の50倍希釈液を1回灌注処理（1L/冊）したところ、処理後150～170日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.005、0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑪だいこん

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回種子粉衣（4.3g/1000種子）したところ、粉衣後66～80日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.009、0.012 ppm

クロチアニジン：<0.005、0.006 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣4.3g/1000種子）、0.5%粒剤を1回（作条処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：1.320、0.247 ppm

クロチアニジン：0.254、0.137 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回種子粉衣（4.3g/1000種子）したところ、粉衣後66～80日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.006、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣4.3g/1000種子）、0.5%粒剤を1回（作条処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.011、0.028 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣2.86g/1000種子）、0.5%粒剤を1回（播溝処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.358、0.378 ppm

クロチアニジン：0.136、0.122 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣2.86g/1000種子）、0.5%粒剤を1回（播溝処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～28日

の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.015、0.010 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑫はくさい

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後48～81日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.016、0.010 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理2g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（200L/10a、120-200L/10a）を3回散布したところ、施用後3～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.072、0.354 ppm

クロチアニジン：0.007、0.020 ppm

⑬キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.310、0.078 ppm

クロチアニジン：0.028、<0.005 ppm

⑭こまつな

こまつな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶液の2000倍希釈液を2回散布（350L/10a、300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.92、2.34 ppm

クロチアニジン：0.10、0.360 ppm

こまつな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（播溝処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（350L/10a、300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：1.58、2.10 ppm

クロチアニジン：0.14、0.40 ppm

⑮みずな

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（播種時作条処理 6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a、185.2L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.93、1.18 ppm

クロチアニジン：0.08、0.18 ppm

⑯チンゲンサイ

チンゲンサイ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を培土床土混和1回（15g/1L）、作条処理1回（6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、220-250L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.78、2.82 ppm

クロチアニジン：0.09、0.32 ppm

⑰ブロッコリー

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後56～65日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.018、0.060 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理 2g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈（300L/10a）を3回散布したところ、施用後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.825、0.359 ppm

クロチアニジン：0.086、0.019 ppm

⑱カリフラワー

カリフラワー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（育苗箱処理 1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a）を3回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.128、0.055 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑲レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴

処理 1g/株)及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (250L/10a、300L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 7~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.290、0.614 ppm

クロチアニジン : 0.015、0.024 ppm

⑳サラダ菜

サラダ菜 (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回植穴処理 (1g/株) したところ、処理後 42~70 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.40、1.36 ppm

クロチアニジン : <0.05、<0.05 ppm

サラダ菜 (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回 (植穴処理 1g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (300L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 3~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 7.81、9.87 ppm

クロチアニジン : 0.10、0.09 ppm

㉑リーフレタス

リーフレタス (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回植穴処理 (1g/株) したところ、処理後 61~73 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.28、<0.05 ppm

クロチアニジン : <0.05、<0.05 ppm

リーフレタス (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回 (植穴処理 1g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (250、300L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 3~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 7.34、3.14 ppm

クロチアニジン : 0.20、0.07 ppm

㉒ねぎ

ねぎ (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回作条処理 (9kg/10a) したところ、処理後 69~131 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.094、0.078 ppm
クロチアニジン : 0.022、0.022 ppm

ねぎ (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、0.5%粒剤を1回 (作条処理 9kg/10a) 及び10%顆粒水溶剤の1000倍希釈液 (200L/10a) を3回散布したところ、施用後3~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.566、0.557 ppm
クロチアニジン : 0.059、0.076 ppm

㊸にら

にら (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、0.5%粒剤を1回 (作条処理 6kg/10a) 及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液 (200L/10a、230L/10a) を3回散布したところ、施用後14、21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.74、0.15 ppm
クロチアニジン : 0.19、0.42 ppm

にら (茎葉) を用いた作物残留試験 (1例) において、0.5%粒剤を1回 (作条処理 6kg/10a) 及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液 (200L/10a、230L/10a) を3回散布したところ、施用後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.38 ppm
クロチアニジン : 0.67 ppm

㊹わけぎ

わけぎ (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、0.5%粒剤を1回作条処理 (9kg/10a) したところ、処理後23~77日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.05、0.61 ppm
クロチアニジン : <0.05、0.06 ppm

わけぎ (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、0.5%粒剤を1回作条処理 (9kg/10a)、1回株元処理 (9kg/10a)、および10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液 (200L/10a、300L/10a) を3回散布したところ、施用後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 1.28、3.96 ppm
クロチアニジン : 0.08、0.21 ppm

㊺アスパラガス

アスパラガス (茎葉) を用いた作物残留試験 (2例) において、10%顆粒水溶剤

の2000倍希釈液(300L/10a)を3回散布したところ、散布後7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

㊸セロリ

セロリ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を1回株元処理(2g/10a)及び1回植穴処理(2g/10a)したところ、処理後75~112日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.1、0.30 ppm

クロチアニジン：<0.1、<0.1 ppm

㊹トマト

トマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を1回植穴処理(2g/株)したところ、処理後44日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008 ppm

クロチアニジン：<0.005 ppm

トマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を1回植穴処理(2g/株)及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液(200L/10a)を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.104 ppm

クロチアニジン：0.018 ppm

トマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を1回植穴処理(2g/株)及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a)を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.077 ppm

クロチアニジン：0.010 ppm

トマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を1回植穴処理(2g/株)及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a)を3回散布したところ、施用後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.154 ppm

クロチアニジン：0.024 ppm

トマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を1回植穴処理(2g/株)及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a)を3回散布したところ、施用後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.156 ppm

クロチアニジン : 0.038 ppm

⑳ ミニトマト

ミニトマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を1回植穴処理 (2g/株) したところ、処理後 72、60 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.06、<0.02 ppm

クロチアニジン : 0.02、<0.02 ppm

ミニトマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を1回植穴処理 (2g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (300-360L/10a、350L/10a) を1回散布したところ、施用後 1~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.44、0.08 ppm

クロチアニジン : 0.10、0.08 ppm

ミニトマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を1回植穴処理 (2g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (300-360L/10a、350L/10a) を2回散布したところ、施用後 1~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.79、0.17 ppm

クロチアニジン : 0.16、0.19 ppm

㉑ ピーマン

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を1回植穴処理 (2g/株) したところ、処理後 42、82 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.023、<0.005 ppm

クロチアニジン : 0.008、<0.005 ppm

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を1回植穴処理 (2g/株)、および 10%顆粒水溶剤の 3000 倍希釈液 (180L/10a、300L/10a) を2回散布したところ、施用後 1 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.200、0.267 ppm

クロチアニジン : 0.016、0.016 ppm

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を1回植穴処理 (2g/株) および 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (180L/10a、300L/10a) を2回散布したところ、施用後 1 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.411、0.310 ppm

クロチアニジン : 0.044、0.034 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）、および10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（180L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.439、0.402 ppm

クロチアニジン：0.032、0.056 ppm

㊸なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後97、108日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（200L/10a、250L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.069、0.040 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、250L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.121、0.054 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、250L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.106、0.055 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

㊹ししとう

ししとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（150L/10a、250L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.53、0.60 ppm

クロチアニジン：0.08、0.05 ppm

㊸とうがらし

とうがらし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、100-150L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.76、0.34 ppm

クロチアニジン：0.16、0.03 ppm

㊹きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）したところ、処理後43、34日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液を2回散布（250L/10a、200L/10a）したところ、散布後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.076、0.104 ppm

クロチアニジン：0.005、0.006 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、200L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.172、0.162 ppm

クロチアニジン：0.010、0.008 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、200L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.141、0.132 ppm

クロチアニジン：0.008、0.008 ppm

㊺すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（176.5-200L/10a、76.1-272.4L/10a）を3回散布したところ、処理後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.017、0.046 ppm

クロチアニジン：<0.005、0.007 ppm

㊸メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後83、87日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.007 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.049、0.029 ppm

クロチアニジン：0.006、<0.005 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後1～35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.023、0.064 ppm

クロチアニジン：0.008、0.014 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200-217L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.010 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

㊹にがうり

にがうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（100-200L/10a、202L/10a）を3回散布したところ、施用後7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.17、0.06 ppm

クロチアニジン：<0.01、0.01 ppm

㊺食用へちま

食用へちま（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、180L/10a）を3回散布したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.11、0.09 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

③⑧ えだまめ

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、400L/10a）を2回散布したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.061、0.025 ppm

クロチアニジン：0.020、0.020 ppm

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、35%フロアブルを1回塗沫処理（12mL/kg 種子）、0.5%粒剤を1回株元処理（6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、400L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.090、0.025 ppm

クロチアニジン：0.028、0.019 ppm

③⑨ 未成熟いんげん

未成熟いんげん（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（300L/10a、150L/10a）を3回散布したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.071、0.053 ppm

クロチアニジン：0.074、0.118 ppm

④⑩ ほうれんそう

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200、300L/10a、250/10a）を2回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：1.26、2.62 ppm

クロチアニジン：0.68、0.75 ppm

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回播溝処理（6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200、300L/10a、250L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.96、4.02 ppm

クロチアニジン：0.58、1.20 ppm

④⑪ オクラ

オクラ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000

倍希釈液(150-210L/10a、200L/10a)を3回散布したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.30、0.21 ppm

クロチアニジン：<0.01、0.01 ppm

㊸れんこん

れんこん(塊茎)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2回湛水処理(6kg/10a)したところ、処理後14~35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

れんこん(塊茎)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を3回湛水処理(6kg/10a)したところ、処理後14~35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.006、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

㊸うこぎ

うこぎ(塊茎)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液を2回散布(150L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.4、<0.2 ppm

クロチアニジン：<0.2、<0.2 ppm

㊸エンサイ

エンサイ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a)を3回散布したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.07、0.42 ppm

クロチアニジン：<0.02、0.04 ppm

㊸みょうが

みょうが(花穂)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(300L/10a)を3回散布したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.02、<0.02 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

④⑥モロヘイヤ

モロヘイヤ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200-211 L/10a）を3回散布したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.66、0.36 ppm

クロチアニジン：0.43、0.34 ppm

④⑦温州みかん

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.040、0.008 ppm

クロチアニジン：0.013、<0.005 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を2回散布したところ、散布後21、28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.018、<0.005 ppm

クロチアニジン：0.007、<0.005 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.65、0.74 ppm

クロチアニジン：0.28、0.12 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布（500L/10a）したところ、散布後21、28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.47、0.58 ppm

クロチアニジン：0.24、0.12 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を3回散布（500L/10a）したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.08 ppm

クロチアニジン：0.014 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤

の 2000 倍希釈液(1000L/10a)を 3 回散布したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.094 ppm

クロチアニジン : 0.022 ppm

温州みかん(果皮)を用いた作物残留試験(1 例)において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液(500L/10a)を 3 回散布したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 1.99 ppm

クロチアニジン : 0.51 ppm

温州みかん(果皮)を用いた作物残留試験(1 例)において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液(1000L/10a)を 3 回散布したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 1.12 ppm

クロチアニジン : 0.47 ppm

温州みかん(果肉)を用いた作物残留試験(1 例)において、10%顆粒水和剤の 2000 倍希釈液(500L/10a)を 3 回散布したところ、散布後 14~35 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.030 ppm

クロチアニジン : 0.008 ppm

温州みかん(果肉)を用いた作物残留試験(1 例)において、10%顆粒水和剤の 2000 倍希釈液(1000L/10a)を 3 回散布したところ、散布後 14~35 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.050 ppm

クロチアニジン : 0.011 ppm

温州みかん(果皮)を用いた作物残留試験(1 例)において、10%顆粒水和剤の 2000 倍希釈液(500L/10a)を 3 回散布したところ、散布後 14~35 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 1.00 ppm

クロチアニジン : 0.30 ppm

温州みかん(果皮)を用いた作物残留試験(1 例)において、10%顆粒水和剤の 2000 倍希釈液(1000L/10a)を 3 回散布したところ、散布後 14~35 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 1.36 ppm

クロチアニジン : 0.36 ppm

④ なつみかん

なつみかん (果肉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10% 顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (500L/10a) を 3 回散布したところ、散布後 14~64 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.024、0.018 ppm

クロチアニジン : 0.010、0.008 ppm

なつみかん (果肉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10% 顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (500L/10a) を 2 回散布したところ、散布後 28~64 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.006、0.008 ppm

クロチアニジン : 0.005、<0.005 ppm

なつみかん (果皮) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10% 顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (500L/10a) を 3 回散布したところ、散布後 14~64 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.38、0.55 ppm

クロチアニジン : 0.14、0.13 ppm

なつみかん (果皮) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10% 顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (500L/10a) を 2 回散布したところ、散布後 28~64 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.20、0.20 ppm

クロチアニジン : 0.04、0.08 ppm

なつみかん (全果実) ^{註3)} を用いた作物残留試験 (2 例) において、10% 顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (500L/10a) を 3 回散布したところ、散布後 14~64 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.1、0.14 ppm

クロチアニジン : 0.04、0.04 ppm

なつみかん (全果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10% 顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (500L/10a) を 2 回散布したところ、散布後 28~64 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.06、0.07 ppm

クロチアニジン : 0.02、0.02 ppm

なつみかん（果実全体）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液（1224L/10a、600L/10a）を3回散布したところ、散布後14～45日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.48、0.22 ppm

クロチアニジン：0.03、0.03 ppm

④9 すだち

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、散布後14～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.040 ppm

クロチアニジン：0.038 ppm

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液を3回散布（500L/10a）したところ、散布後14～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.13 ppm

クロチアニジン：0.06 ppm

⑤0 かぼす

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、散布後14～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.058 ppm

クロチアニジン：0.010 ppm

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液（640L/10a）を3回散布したところ、散布後14～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.05 ppm

クロチアニジン：0.02 ppm

⑤1 ゆず

ゆず（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、散布後14～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.097 ppm

クロチアニジン：0.063 ppm

㉔りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a、700L/10a）を2回散布したところ、散布後7~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.064、0.050 ppm

クロチアニジン：0.006、0.010 ppm

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液（500L/10a、700L/10a）を2回散布したところ、散布後7~35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.092、0.044 ppm

クロチアニジン：0.008、<0.005 ppm

㉕日本なし

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（400L/10a）を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.045、0.018 ppm

クロチアニジン：0.016、0.011 ppm

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（400L/10a）を4回散布したところ、散布後12、19日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.039 ppm

クロチアニジン：0.016 ppm

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a、400L/10a）を3回散布したところ、散布後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.32、0.14 ppm

クロチアニジン：<0.02、0.04 ppm

㉖もも

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（400L/10a、350L/10a）を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.059 ppm

クロチアニジン：0.046、0.080 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000

倍希釈液(400L/10a、350L/10a)を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.10、0.23 ppm

クロチアニジン：0.15、0.26 ppm

もも(果肉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を1回地表表面処理(200g/樹)したところ、散布後30日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.02、<0.02 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

もも(果皮)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を1回地表表面処理(200g/樹)したところ、散布後30日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.1、<0.1 ppm

クロチアニジン：<0.1、<0.1 ppm

もも(果肉)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a、400L/10a)を3回散布したところ、散布後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.12、0.14 ppm

クロチアニジン：0.08、0.12 ppm

もも(果皮)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a、400L/10a)を3回散布したところ、散布後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：2.64、1.90 ppm

クロチアニジン：0.53、0.61 ppm

㊦ すもも

すもも(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(300L/10a、500L/10a)を3回散布したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.03、<0.02 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

㊦ うめ

うめ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(600L/10a、400L/10a)を2回散布したところ、散布後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.089、1.080 ppm
クロチアニジン : 0.117、0.242 ppm

⑦おうとう

おうとう (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (500L/10a) を 2 回散布したところ、散布後 1~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 1.36、1.62 ppm
クロチアニジン : 0.12、0.139 ppm

⑧いちご

いちご (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回植穴処理 (2g/株) したところ、処理後 92~146 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.014、<0.005 ppm
クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

いちご (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回株元散布 (2g/株)、1 回植穴処理 (2g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (250L/10a、200L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 1~7 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.802、0.427 ppm
クロチアニジン : 0.010、0.010 ppm

⑨ぶどう

ぶどう (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (300L/10a、500L/10a) を 2 回散布したところ、処理後 7~28 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.540、0.943 ppm
クロチアニジン : 0.122、0.053 ppm

⑩かき

かき (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (500L/10a) を 3 回散布したところ、処理後 3~21 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.320、0.164 ppm
クロチアニジン : 0.012、0.019 ppm

⑪バナナ

バナナ (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10%顆粒水溶剤の 2000

倍希釈液(200L/10a)を3回散布したところ、処理後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.19、0.28 ppm

クロチアニジン：<0.02、0.02 ppm

⑥2 グアバ

グアバ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(313L/10a、200L/10a)を2回散布したところ、処理後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.03、0.02 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

⑥3 マンゴー

マンゴー(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(167L/10a、300L/10a)を2回散布したところ、処理後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.03、0.02 ppm

クロチアニジン：0.03、0.04 ppm

⑥4 いちじく

いちじく(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(330L/10a、500L/10a)を2回散布したところ、処理後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.56、0.43 ppm

クロチアニジン：0.12、<0.1 ppm

⑥5 アセロラ

アセロラ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(165L/10a、556L/10a)を2回散布したところ、処理後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.06、0.22 ppm

クロチアニジン：<0.04、0.09 ppm

⑥6 茶

茶(荒茶)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a)を1回散布したところ、処理後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：7.13、2.28 ppm

クロチアニジン：0.25、0.07 ppm

茶（浸出液）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a)を1回散布したところ、処理後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：6.08、1.54 ppm

クロチアニジン：0.23、0.06 ppm

茶（荒茶）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液(200L/10a)を1回散布したところ、処理後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：9.60、3.23 ppm

クロチアニジン：0.17、0.09 ppm

茶（浸出液）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液(200L/10a)を1回散布したところ、処理後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：8.40、2.81 ppm

クロチアニジン：0.15、0.08 ppm

⑥7 セージ

セージ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a)を3回散布したところ、処理後21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.47、0.54 ppm

クロチアニジン：0.12、0.06 ppm

⑥8 あさつき

あさつき（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条処理(9 kg/10a)したところ、処理後46~102日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.31、0.08 ppm

クロチアニジン：0.05、<0.05 ppm

あさつき（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条処理(9kg/10a)、1回株元処理(9kg/10a)、及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(150L/10a)を3回散布したところ、処理後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：2.26、0.88 ppm

クロチアニジン：0.18、0.05 ppm

これらの試験結果の概要については、別紙1-1、海外で実施された作物残留試験成

績の結果の概要については、別紙 1-2 を参照。

注 1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成 10 年 8 月 7 日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

注 2) 適用範囲内で実施されていない作物残留試験については、適用範囲内で実施されていない条件を斜体で示した。

注 3) 「なつみかん（全果実）」については、各試験区の果肉／果皮重量比を用いて算出している。

7. 乳牛における残留試験

乳牛に対して 0、2、6、20ppm の飼料中濃度に相当する量のチアメトキサムを含有するゼラチンカプセルを 28-30 日間にわたり摂食させ、牛乳、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓に含まれるチアメトキサム及びクロチアニジン含量を測定した。また、牛乳については、投与開始後 0、1、3、7、14、21、26 日目に搾乳したものを測定した（定量限界：チアメトキサム 0.005ppm、クロチアニジン 0.005ppm）。筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓については、投与開始後、28、29、30 日目に採取したものを測定した（定量限界：チアメトキサム 0.01ppm、クロチアニジン 0.01ppm）。結果については表 1 参照。

上記の結果に関連して、米国では、最大理論的飼料由来負荷（MTDB）^注は肉牛 0.77ppm、乳牛 0.98ppm 及び豚 0.088ppm と評価している。

表 1. 牛乳及び各組織中の最大残留（ppm）

	2ppm 投与群		6ppm 投与群		20ppm 投与群	
	チアメトキサム	クロチアニジン	チアメトキサム	クロチアニジン	チアメトキサム	クロチアニジン
筋肉	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	0.06	<0.01
脂肪	-	-	-	-	<0.01	<0.01
肝臓	<0.01	0.049	<0.01	0.139	<0.01	0.384
腎臓	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.04	<0.01
牛乳	0.01	0.006	0.05	0.02	0.17	0.07

注) 最大理論的飼料由来負荷（Maximum Theoretical Dietary Burden：MTDB）：飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量。飼料中残留濃度として表示される。

（参考：Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs）

8. 産卵鶏における残留試験

産卵鶏に対してチアメトキサム 0、0.2、0.6、2、10ppm 含有する飼料を 28 日間にわたり自由に摂取させ、投与終了後 20-24 時間後の筋肉、皮膚、脂肪、肝臓に含まれるチアメトキサム、クロチアニジン及び代謝物 CGA-265307 を測定した。また、鶏卵につ

いても投与開始後 1、3、7、14、21、28 日に採卵しチアメトキサム、クロチアニジン及び代謝物 CGA-265307 について測定した（定量限界：0.01ppm）。その結果、10ppm 投与群の鶏卵から、クロチアニジンが 0.01ppm（採卵日 28 日目）、代謝物 CGA-265307 が 0.01-0.04ppm（採卵日 3-28 日）検出されたが、その他についてはいずれも定量限界未満であった。

上記の結果に関連して、米国では MTDB を 0.232ppm と評価している。また、鶏卵、鶏の脂肪及び筋肉に対して基準値を設定する必要はないと評価している。

9. ADI の評価

食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 24 条第 1 項第 1 号の規定に基づき、平成 16 年 8 月 3 日付け厚生労働省発食安第 0803001 号及び同法第 24 条第 2 項の規定に基づき、平成 18 年 7 月 18 日付け厚生労働省発食安第 0718002 号により食品安全委員会あて意見を求めたチアメトキサムに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：1.84 mg/kg 体重/day

（動物種）	ラット
（投与方法）	混餌
（試験の種類）	繁殖試験
（期間）	2 世代

安全係数：100

ADI：0.018 mg/kg 体重/day

10. 諸外国における状況

JMPR における毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されていない。

米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国において、とうもろこし、ぶどう等に、カナダにおいて鶏卵、乳等に、EUにおいてアブリコット、にんじん等に、オーストラリアにおいて、かんきつ等に、ニュージーランドにおいてキウイー等に基準値が設定されている。

11. 基準値案

（1）残留の規制対象

チアメトキサム本体

代謝物のクロチアニジンは、クロチアニジンとしての農薬登録もなされていることから、クロチアニジンの使用による残留と、本剤の使用に由来するクロチアニジンの残留を含めて、クロチアニジンとしての基準値を別途設定しているところである。

米国等の基準にあつては、チアメトキサムの規制の対象として、チアメトキサムとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和としているが、各作物残留試験の結果に

において、一部の作物を除き、チアメトキサムの残留量に対するクロチアニジンの残留量が少ないこと、また、クロチアニジンの毒性（無毒性量9.7mg/kg 体重/day）がチアメトキサムの毒性（1.84mg/kg 体重/day）よりも低いことから、我が国ではチアメトキサムの基準はチアメトキサムのみを対象とすることとし、クロチアニジンの基準値の対象を、クロチアニジンとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和とすることとした。今回、本剤の基準値の見直しに伴い、クロチアニジンの基準値についても同時に検討することとしている。

また、食品安全委員会による食品健康影響評価においては、暴露評価対象物質としてチアメトキサムが設定されている。

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のチアメトキサムが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量（推定1日摂取量(EDI)）のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。

	EDI/ADI (%) ^{注)}
国民平均	28.5
幼小児 (1~6歳)	48.8
妊婦	22.0
高齢者 (65歳以上)	31.2

注) 作物残留試験成績等がある食品についてはEDI 試算、それ以外の食品についてはTMDI 試算を行った。

(4) 本剤については、平成17年11月29日付け厚生労働省告示第499号により、食品一般の成分規格7に食品に残留する量の限度（暫定基準）が定められているが、今般、残留基準の見直しを行うことに伴い、暫定基準は削除される。

チアメトキサム作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
水稻 (玄米)	2	2%粒剤	育苗箱処理 50g/育苗箱	1回	125日	圃場A:<0.005/<0.005
					146日	圃場B:<0.005/<0.005
水稻 (稲わら)	2	2%粒剤	育苗箱処理 50g/育苗箱	1回	125日	圃場A:<0.04/<0.04
					146日	圃場B:<0.04/<0.04
水稻 (玄米)	2	2%粒剤+0.5%粒 剤+10%顆粒水 溶剤	育苗箱処理50g/育苗箱+ 1.5kg/10a散布+2000倍散 布150L/10a	1+1+1回	20日	圃場A:0.027/0.029 (#)
					21日	圃場B:0.024/0.011 (#)
水稻 (稲わら)	2	2%粒剤+0.5%粒 剤+10%顆粒水 溶剤	育苗箱処理50g/育苗箱+ 1.5kg/10a散布+2000倍散 布150L/10a	1+1+1回	20日	圃場A:0.06/<0.04 (#)
					21日	圃場B:0.08/<0.04 (#)
水稻 (玄米)	2	2%粒剤+10%顆 粒水溶剤	育苗箱処理50g/育苗箱 +2000倍散布150L/10a	1+2回	7, 14, 21日	圃場A:0.078*/0.078*(*3回、13日) (#)
					6, 13, 20日	圃場B:0.045/0.026*(*3回、21日) (#)
水稻 (稲わら)	2	2%粒剤+10%顆 粒水溶剤	育苗箱処理50g/育苗箱 +2000倍散布150L/10a	1+2回	7, 14, 21日	圃場A:0.27/0.04 (#)
					6, 13, 20日	圃場B:0.28/<0.04 (#)
水稻 (玄米)	2	2%粒剤+0.5% 粒剤+21%フロ アブル	育苗箱処理50g/育苗箱 +6kg/10a湛水処理 +5000倍散布150L/10a	1+1+2回	21日	圃場A:0.045/0.054 (#)
						圃場B:0.070/0.046 (#)
水稻 (稲わら)	2	2%粒剤+0.5% 粒剤+21%フロ アブル	育苗箱処理50g/育苗箱 +6kg/10a湛水処理 +5000倍散布150L/10a	1+1+2回	21日	圃場A:0.50/0.04 (#)
						圃場B:0.26/0.02 (#)
水稻 (玄米)	2	2%粒剤	育苗箱処理 50g/育苗箱	1回	134日	圃場A:<0.005/<0.005 (#)
					122日	圃場B:<0.005/0.008 (#)
水稻 (稲わら)	2	2%粒剤	育苗箱処理 50g/育苗箱	1回	134日	圃場A:0.04/<0.02 (#)
					122日	圃場B:0.06/<0.02 (#)
水稻 (玄米)	2	2%粒剤+0.5% 粒剤+10%顆粒 水溶剤	育苗箱処理50g/育苗箱 +6kg/10a散布 +1000倍散布150L/10a	1+1+2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.096*/0.064** (*4回、14日/**4回、28日) (#)
						圃場B:0.086/0.076* (*4回、28日) (#)
水稻 (稲わら)	2	2%粒剤+0.5% 粒剤+10%顆粒 水溶剤	育苗箱処理50g/育苗箱 +6kg/10a散布 +1000倍散布150L/10a	1+1+2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:2.98/0.11 (#)
						圃場B:1.10/0.08 (#)
未成熟とうもろこし (生食用子実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a, 300L/10a	2回	7, 21, 42日	圃場A:<0.005/<0.005 (#)
						圃場B:<0.005/<0.005 (#)
大豆 (乾燥子実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 150L/10a, 300L/10a	2回	6, 13, 21日	圃場A:<0.005/<0.005 (#)
					7, 14, 21日	圃場B:<0.005/<0.005 (#)

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
大豆 (乾燥子実)	2	30%フロアブル +0.5%粒剤+ 10%顆粒水溶剤	12mL/kg種子塗沫 +6kg/10a株元処理+2000倍 散布150L/10a, 300L/10a	1+1+2回	6, 13, 21日	圃場A:<0.005/<0.005 (#)
					7, 14, 21日	圃場B:<0.005/<0.005 (#)
小豆 (乾燥子実)	2	30%フロアブル	6mL/kg種子塗沫処理	1回	126日	圃場A:<0.005/<0.005
					143日	圃場B:<0.005/<0.005
小豆 (乾燥子実)	2	30%フロアブル +10%顆粒水溶 剤	6mL/kg種子塗沫+3000倍 散布150L/10a, 300L/10a	1+2回	1, 7, 14日	圃場A:0.014/0.008 (3回、14日) (#)
					1, 7, 14日	圃場B:0.022/0.018 (3回、7日) (#)
いんげん (乾燥子実)	2	10%顆粒水溶剤	3000倍散布 300L/10a	3回	7, 14日	圃場A:0.012*/0.049 (*3回、14日) 圃場B:<0.005 /<0.005
いんげん (乾燥子実)	2	30%フロアブル +0.5%粒剤+ 10%顆粒水溶剤	12mL/kg種子塗沫 +6kg/10a作条処理+2000倍 散布200L/10a, 175-200L/10a	1+1+3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01/0.01 (#) 圃場B:<0.01/<0.01 (#)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤+ 10%顆粒水溶剤	9kg/10a作条土壌混和处理 +2000倍散布200L/10a	1+3回	14, 21, 28日	圃場A:<0.005/<0.005 (#) 圃場B:0.100/0.020 (4回、21日) (#)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤+ 10%顆粒水溶剤	6kg/10a作条土壌混和处理 +750倍散布25L/10a	1+3回	14, 21, 28日	圃場A:0.02/0.02 圃場B:<0.01/<0.01
さといも (塊茎)	2	0.5%粒剤	6kg/10a植穴処理 +6kg/10a株元散布	1+1回	30, 37, 45日	圃場A:0.14/<0.01 (#) 圃場B:0.039/<0.01 (#)
さといも (塊茎)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 250L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.022/<0.01 (#) 圃場B:<0.01/<0.01 (#)
さといも (塊茎)	2	0.5%粒剤+ 10%顆粒水溶剤	6kg/10a植穴処理+ 2000倍散布150L/10a	1+2回	7, 14, 21日	圃場A:0.038/<0.01 (#) 圃場B:<0.01/<0.01 (#)
かんしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤	9kg/10a作条土壌混和	1回	112日	圃場A:<0.005/<0.005
					117日	圃場B:<0.005/<0.005
かんしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤	9kg/10a作条土壌混和+ 6kg/10a株元土壌混和	1+2回	21, 28, 42日	圃場A:0.012/<0.005 (#) 圃場B:0.006/<0.005 (#)
こんにゃくいも (塊茎)	2	0.5%粒剤	6kg/10a株元土壌混和	1回	132, 139, 146日	圃場A:<0.01/<0.01
					145, 152, 159日	圃場B:0.02/<0.01
てんさい (根部)	2	10%顆粒水溶剤	50倍灌注処理 1L/冊	1回	150, 157, 164日	圃場A:<0.005/<0.005
					156, 163, 170日	圃場B:0.005/<0.005

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
だいこん (葉部)	2	70%水和剤	種子粉衣 4.3g/1000種子	1回	66, 73, 80日	圃場A:0.009/<0.005 (#) 圃場B:0.012*/0.006* (*1回、73日) (#)
だいこん (葉部)	2	70%水和剤+ 0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	4.3g/1000種子粉衣+ 6kg/10a作条処理+ 2000倍散布150L/10a	1+1+2回	7, 14, 21日	圃場A:1.320/0.254 (#) 圃場B:0.247/0.137 (#)
だいこん (根部)	2	70%水和剤	種子粉衣 4.3g/1000種子	1回	66, 73, 80日	圃場A:0.006/<0.005 (#) 圃場B:<0.005/<0.005 (#)
だいこん (根部)	2	70%水和剤+ 0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	4.3g/1000種子粉衣+ 6kg/10a作条処理+ 2000倍散布150L/10a	1+1+2回	7, 14, 21日	圃場A:0.011/<0.005 (#) 圃場B:0.028/<0.005 (#)
だいこん (葉部)	2	70%水和剤+ 0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	2.86g/1000種子粉衣+ 6kg/10a播溝処理+ 2000倍散布150L/10a	1+1+2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.358/0.136 (#) 圃場B:0.378/0.122 (#)
だいこん (根部)	2	70%水和剤+ 0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	2.86g/1000種子粉衣+ 6kg/10a播溝処理+ 2000倍散布150L/10a	1+1+2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.015/<0.005 (#) 圃場B:0.010/<0.005 (#)
はくさい (茎葉)	2	0.5%粒剤	植穴処理 2g/株	1回	67, 74, 81日 48, 55, 62日	圃場A:0.016/<0.005 圃場B:0.010/<0.005
はくさい (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+3000倍散 布200L/10a, 120~200L/10a	1+3回	3, 7, 14, 21日	圃場A:0.072/0.007 圃場B:0.354/0.020
キャベツ (葉球)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株 +2000倍散布200L/10a	1+3回	3, 7, 14日	圃場A:0.310/0.028 (#) 圃場B:0.078/<0.005 (#)
こまつな (茎葉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 350L/10a, 300L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A:0.92/0.10 圃場B:2.34/0.360
こまつな (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	6kg/10a播溝処理+2000倍 散布350L/10a, 300L/10a	1+2回	3, 7, 14日	圃場A:1.58/0.14 圃場B:2.10/0.40
みずな (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	6kg/10a播種時作条処理+ 2000倍散布300L/10a, 185.2L/10a	1+2回	3, 7, 14日	圃場A:0.93/0.08 (#) 圃場B:1.18/0.18 (#)
チンゲンサイ (茎葉)	2	0.5%粒剤+0.5% 粒剤+10%顆粒 水溶剤	15g/1L培土床土混和 +6kg/10a作条処理 +2000倍散布 200L/10a, 220~250L/10a	1+1+2回	3, 7, 14日	圃場A:0.78/0.09 (#) 圃場B:2.82/0.32 (#)
ブロッコリー (花蕾)	2	0.5%粒剤	植穴処理2g/株	1回	59, 61, 65日 56, 58, 62日	圃場A:0.018*/<0.005 (*1回、65日) 圃場B:0.060/<0.005

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ブロッコリー (花蕾)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+ 3000倍300L/10a	1+3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.825/0.086 圃場B:0.359/0.019
カリフラワー (花蕾)	2	10%顆粒水溶剤	育苗箱処理1g/株 +2000倍散布300L/10a	1+3回	7, 14, 21日	圃場A:0.128/<0.005 (#) 圃場B:0.055/<0.005 (#)
レタス (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理1g/株+ 2000倍散布 250L/10a, 300L/10a	1+2回	7, 14日	圃場A:0.290/0.015* (*3回、14日) (#) 圃場B:0.614/0.024* (*3回、14日) (#)
サラダ菜 (茎葉)	2	0.5%粒剤	植穴処理1g/株	1回	59, 63, 70日 42, 46, 53日	圃場A:0.40*/<0.05 (*1回、70日) (#) 圃場B:1.36*/<0.05 (*1回、46日) (#)
サラダ菜 (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理1g/株+ 2000倍散布300L/10a	1+2回	3, 7, 14日	圃場A:7.81/0.10 (#) 圃場B:9.87/0.09 (#)
リーフレタス (茎葉)	2	0.5%粒剤	植穴処理1g/株	1回	61, 65, 72日 62, 66, 73日	圃場A:0.28*/<0.05 (*1回、65日) (#) 圃場B:<0.05/<0.05 (#)
リーフレタス (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	1kg/株 植穴処理 +2000倍散布250, 300L/10a	1+2回	3, 7, 14日	圃場A:7.34/0.20 (#) 圃場B:3.14/0.07 (#)
ねぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤	9kg/10a作条処理	1回	117, 124, 131日 69, 77, 84日	圃場A:0.094/0.022 圃場B:0.078/0.022
ねぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	9kg/10a作条処理 +1000倍200L/10a散布	1+3回	3, 7, 14, 21日 3, 6, 14, 21日	圃場A:0.566/0.059 圃場B:0.557/0.076
にら (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	6kg/10a作条処理 +2000倍200L/10a, 230L/10a散布	1+3回	14, 21日	圃場A:0.74/0.19 (#) 圃場B:0.15/0.42 (#)
にら (茎葉)	1	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	6kg/10a作条処理 +2000倍200L/10a, 230L/10a散布	1+3回	14日	圃場A:0.38/0.67 (#)
わけぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤	9kg/10a作条処理	1回	63, 70, 77日 23, 30, 36日	圃場A:0.05/<0.05 (#) 圃場B:0.61/0.06 (#)
わけぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤+0.5% 粒剤+10%顆粒 水溶剤	9kg/10a作条処理+9kg /10a株元処理+2000倍散 布200L/10a, 300L/10a	1+1+3回	3, 7, 14日	圃場A:1.28/0.08 (#) 圃場B:3.96/0.21* (*5回、7日) (#)
アスパラガス (茎葉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 300L/10a	3回	7日	圃場A:<0.005/<0.005 圃場B:<0.005/<0.005
セロリ (茎葉)	2	0.5%粒剤	株元処理2g/株 +植穴処理2g/株	2回	75, 82, 89日 98, 105, 112日	圃場A:<0.1/<0.1 圃場B:0.30*/<0.1 (*2回、112日)

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
トマト (果実)	1	0.5%粒剤	植穴処理2g/株	1回	44日	圃場A:0.008/<0.005
トマト (果実)	1	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株 +3000倍散布200L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.104/0.018
トマト (果実)	1	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株 +2000倍散布200L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.077/0.010
トマト (果実)	1	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株 +2000倍散布200L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.154*/0.024* (*4回、3日)
トマト (果実)	1	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株 +2000倍散布200L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.156*/0.038 (*4回、3日)
ミニトマト (果実)	2	0.5%粒剤	植穴処理2g/株	1回	72日 60日	圃場A:0.06/0.02 圃場B:<0.02/<0.02
ミニトマト (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布300-360L/10a, 350L/10a	1+1回	1, 7, 14日	圃場A:0.44/0.10* (*2回、7日) 圃場B:0.08*/0.08* (*2回、7日)
ミニトマト (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍 300-360L/10a, 350L/10a 散布	1+2回	1, 7, 14日	圃場A:0.79/0.16* (*3回、7日) 圃場B:0.17*/0.19* (*3回、7日)
ピーマン (果実)	2	0.5%粒剤	植穴処理2g/株	1回	42日 82日	圃場A:0.023/0.008 圃場B:<0.005/<0.005
ピーマン (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+3000倍散 布180L/10a, 300L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.200/0.016 圃場B:0.267/0.016
ピーマン (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布180L/10a, 300L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.411/0.044 圃場B:0.310/0.034
ピーマン (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布180L/10a, 300L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.439/0.032 圃場B:0.402/0.056
なす (果実)	2	0.5%粒剤	植穴処理2g/株	1回	97日 108日	圃場A:<0.005/<0.005 (#) 圃場B:<0.005/<0.005 (#)
なす (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+3000倍散 布200L/10a, 250L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.069/<0.005 (#) 圃場B:0.040/<0.005 (#)
なす (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布200L/10a, 250L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.121/<0.005 (#) 圃場B:0.054/<0.005 (#)

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
なす (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布200L/10a, 250L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.106/<0.005 (#) 圃場B:0.055/<0.005 (#)
ししとう (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	定時的植穴処理1g/株+ 3000倍散布 150L/10a, 250L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.53*/0.08* (*4回、3日) 圃場B:0.60/0.05* (*4回、3日)
とうがらし (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	定時的植穴処理1g/株+ 2000倍散布200L/10a, 100-150L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.76/0.16 (#) 圃場B:0.34/0.03* (*4回、3日) (#)
きゅうり (果実)	1	0.5%粒剤	植穴処理1g/株	1回	43日 34日	圃場A:0.008/<0.005 圃場B:0.005/<0.005
きゅうり (果実)	2	10%顆粒水溶剤	3000倍散布 250L/10a, 200L/10a	2回	1日	圃場A:0.076/0.005 圃場B:0.104/0.006
きゅうり (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理1g/株+2000倍 散布250L/10a, 200L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.172/0.010 圃場B:0.162/0.008
きゅうり (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理1g/株+2000倍散 布250L/10a, 200L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.141/0.008 圃場B:0.132/0.008
すいか 果実	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布176.5-200L/10a, 76.1-272.4L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.017/<0.005 圃場B:0.046/0.007
メロン (果実)	2	0.5%粒剤	植穴処理2g/株	1回	83日 87日	圃場A:0.008/<0.005 圃場B:0.007/<0.005
メロン (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布250L/10a, 300L/10a	1+3回	3, 7, 14日	圃場A:0.049*/0.006* (*4回、14日) 圃場B:0.029*/<0.005 (*4回、14日)
メロン (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布250L/10a, 300L/10a	1+3回	1, 3, 7, 14, 21, 28, 35日	圃場A:0.023/0.008* (*4回、35日) 圃場B:0.064*/0.014** (*4回、14日/**4回、28日)
メロン (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株 +2000倍散布 200-217L/10a	1+2回	3, 7, 14日	圃場A:0.008*/<0.005 (*3回、14日) 圃場B:0.010*/<0.005 (*3回、7日)
にがうり (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布100-200L/10a, 202L/10a	1+3回	7日	圃場A:0.17/<0.01 (#) 圃場B:0.06/0.01 (#)
食用へちま (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a, 180L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.11/<0.02 圃場B:0.09*/<0.02 (*3回、3日)

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
えだまめ (さや)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a, 400L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.061/0.020 (#) 圃場B:0.025/0.020 (#)
えだまめ (さや)	2	35%フロアブル +0.5%粒剤+ 10%顆粒水溶剤	12mL/kg種子塗沫処理 +6kg/10a株元処理+2000倍 散布200L/10a, 400L/10a	1+1+2回	7, 14, 21日	圃場A:0.090/0.028 (#) 圃場B:0.025/0.019 (#)
未成熟いんげん (さや)	2	10%顆粒水溶剤	3000倍散布 300L/10a, 150L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:0.071/0.074 圃場B:0.053/0.118
ほうれんそう (茎葉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200, 300L/10a, 250L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A:1.26/0.68 圃場B:2.62/0.75
ほうれんそう (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	播溝処理6kg/10a +2000倍散布 200, 300L/10a, 250L/10a	1+2回	3, 7, 14日	圃場A:0.96/0.58 圃場B:4.02/1.20
オクラ (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 150-210L/10a, 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.30/<0.01 圃場B:0.21/0.01* (*3回、3日)
れんこん (塊茎)	2	0.5%粒剤	湛水処理6kg/10a	2回	14, 21, 28, 35日	圃場A:0.008/<0.005 圃場B:<0.005/<0.005
れんこん (塊茎)	2	0.5%粒剤	湛水処理6kg/10a	3回	14, 21, 28, 35日	圃場A:0.006/<0.005 圃場B:<0.005/<0.005
ウコギ (塊茎)	2	10%顆粒水溶剤	3000倍散布 150L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A:0.4/<0.2 圃場B:<0.2/<0.2
エンサイ (茎葉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	14日	圃場A:0.07/<0.02 圃場B:0.42/0.04
みょうが (花穂)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:<0.02/<0.02 圃場B:<0.02/<0.02
モロヘイヤ (茎葉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200-211L/10a, 200L/10a	3回	7, 14日	圃場A:0.66/0.43 圃場B:0.36/0.34
温州みかん (果肉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.040*/0.013 (*3回、28日) 圃場B:0.008/<0.005
温州みかん (果肉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	2回	21, 28日	圃場A:0.018*/0.007 (*2回、28日) 圃場B:<0.005/<0.005

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
温州みかん (果皮)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.65/0.28 圃場B:0.74/0.12
温州みかん (果皮)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	2回	21, 28日	圃場A:0.47/0.24 圃場B:0.58/0.12
温州みかん (果肉)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.080/0.014* (*3回、28日)
温州みかん (果肉)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 1000L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.094*/0.022** (*3回、21日/**3回、28日) (#)
温州みかん (果皮)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:1.99/0.51* (*3回、21日)
温州みかん (果皮)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 1000L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:1.12*/0.47* (*3回、21日) (#)
温州みかん (果肉)	1	10%顆粒水和剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28, 35日	圃場A:0.030*/0.008* (*3回、21日)
温州みかん (果肉)	1	10%顆粒水和剤	2000倍散布 1000L/10a	3回	14, 21, 28, 35日	圃場A:0.050/0.011* (*3回、28日) (#)
温州みかん (果皮)	1	10%顆粒水和剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28, 35日	圃場A:1.00/0.30* (*3回、21日)
温州みかん (果皮)	1	10%顆粒水和剤	2000倍散布 1000L/10a	3回	14, 21, 28, 35日	圃場A:1.36/0.36 (#)
なつみかん (果肉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 28, 42, 49, 64日 14, 28, 42, 49, 60日	圃場A:0.024/0.010* (*3回、64日) 圃場B:0.018*/0.008* (*3回、42日)
なつみかん (果肉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	2回	28, 42, 49, 64日 28, 42, 49, 60日	圃場A:0.006*/0.005 (*2回、42日) 圃場B:0.008/<0.005
なつみかん (果皮)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 28, 42, 49, 64日 14, 28, 42, 49, 60日	圃場A:0.38/0.14* (*3回、49日) 圃場B:0.55/0.13* (*3回、42日)
なつみかん (果皮)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	2回	28, 42, 49, 64日 28, 42, 49, 60日	圃場A:0.20/0.04 圃場B:0.20*/0.08* (*2回、42日)

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
なつみかん (全果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 28, 42, 49, 64日	圃場A:0.1/0.04
					14, 28, 42, 49, 60日	圃場B:0.14/0.04
なつみかん (全果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	2回	28, 42, 49, 64日	圃場A:0.06/0.02
					28, 42, 49, 60日	圃場B:0.07/0.02
なつみかん (果実全体)	2	10%顆粒水和剤	2000倍散布 1224L/10a, 600L/10a	3回	14, 21, 28, 45日	圃場A:0.48*/0.03** (*3回、21日/**3回、45日) (#) 圃場B:0.22/0.03* (*3回、21日)
すだち (果実)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 28, 42日	圃場A:0.040/0.038
すだち (果実)	1	10%顆粒水和剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28, 45日	圃場A:0.13/0.06
かぼす (果実)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 28, 42日	圃場A:0.058/0.010
かぼす (果実)	1	10%顆粒水和剤	2000倍散布 640L/10a	3回	14, 21, 28, 45日	圃場A:0.05/0.02
ゆず (果実)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 28, 42日	圃場A:0.097/0.063
りんご (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a, 700L/10a	2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.064/0.006* (*2回、21日) 圃場B:0.050/0.010
りんご (果実)	2	10%顆粒水和剤	2000倍散布 500L/10a, 700L/10a	2回	7, 14, 21, 28, 35日	圃場A:0.092*/0.008* (*2回、35日)
					7, 14, 19, 28, 35日	圃場B:0.044*/<0.005 (*2回、19日)
日本なし (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 400L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.045/0.016* (*3回、21日)
					28日	圃場B:0.018/0.011
日本なし (果実)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 400L/10a	4回	12, 19日	圃場A:0.039/0.016* (*4回、19日) (#)
日本なし (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 300L/10a, 400L/10a	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.32*/<0.02 (*3回、3日) 圃場B:0.14*/0.04** (*3回、3日/ **3回、14日)
もも (果肉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 400L/10a, 350L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.008/0.046
					14, 17, 24日	圃場B:0.059*/0.080* (*3回、17日)
もも (果皮)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 400L/10a, 350L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.10/0.15
					14, 17, 24日	圃場B:0.23*/0.26 (*3回、17日)

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
もも (果肉)	2	0.5%粒剤	200g/樹 地表表面処理	1回	30日	圃場A:<0.02/<0.02 (#) 圃場B:<0.02/<0.02 (#)
もも (果皮)	2	0.5%粒剤	200g/樹 地表表面処理	1回	30日	圃場A:<0.1/<0.1 (#) 圃場B:<0.1/<0.1 (#)
もも (果肉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a, 400L/10a	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.12*/0.08* (*3回、7日) 圃場B:0.14/0.12* (*3回、14日)
もも (果皮)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a, 400L/10a	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:2.64/0.53* (*3回、7日) 圃場B:1.90/0.61
すもも (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 300L/10a, 500L/10a	3回	7, 14日	圃場A:0.03/<0.02 圃場B:<0.02/<0.02
うめ (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 600L/10a, 400L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.089/0.117* (*2回、14日) 圃場B:1.080/0.242* (*2回、21日)
おうとう (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	2回	1, 3, 7, 14日	圃場A:1.36*/0.12* (*2回、7日) 圃場B:1.62/0.139* (*2回、14日)
いちご (果実)	2	0.5%粒剤	植穴処理2g/株	1回	92, 99, 106, 115日 125, 132, 139, 146日	圃場A:0.014/<0.005 (#) 圃場B:<0.005/<0.005 (#)
いちご (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	株元処理2g/株+植穴処理 2g/株+2000倍散布 250L/10a, 200L/10a	1+1+2回	1, 3, 7日	圃場A:0.802/0.010 (#) 圃場B:0.427/0.010 (#)
ぶどう (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 300L/10a, 500L/10a	2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.540/0.122* (*2回、28日) 圃場B:0.943*/0.053* (*2回、14日)
かき (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	3, 7, 14, 21日	圃場A:0.320/0.012* (*3回、7日) 圃場B:0.164/0.019* (*3回、21日)
バナナ (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.19/<0.02 圃場B:0.28*/0.02 (*3回、14日)
グアバ (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 313L/10a, 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.03/<0.02 圃場B:0.02*/<0.02 (*2回、21日)
マンゴー (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 167L/10a, 300L/10a	2回	14, 21, 28日	圃場A:0.03/0.03 圃場B:0.02/0.04* (*2回、21日)
いちじく (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 330L/10a, 500L/10a	2回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.56/0.12 圃場B:0.43/<0.1

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
アセロラ (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 165L/10a, 556L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.06/<0.04 圃場B:0.22/0.09
茶 (荒茶)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a	1回	7, 14, 21日	圃場A:7.13/0.25 圃場B:2.28/0.07
茶 (浸出液)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a	1回	7, 14, 21日	圃場A:6.08/0.23 圃場B:1.54/0.06
茶 (荒茶)	2	10%顆粒水和剤	2000倍散布 200L/10a	1回	7, 14, 21日	圃場A:9.60/0.17 圃場B:3.23/0.09
茶 (浸出液)	2	10%顆粒水和剤	2000倍散布 200L/10a	1回	7, 14, 21日	圃場A:8.40/0.15 圃場B:2.81/0.08
セージ (茎葉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	21日	圃場A:0.47/0.12 圃場B:0.54/0.06
あさつき (可食部)	2	0.5%粒剤	作条処理9kg/10a	1回	46, 53, 60日 88, 95, 102日	圃場A:0.31*/0.05 (*1回、53日) (#) 圃場B:0.08/<0.05 (#)
あさつき (可食部)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	作条処理9kg/10a +株元処理9kg/10a +2000倍散布150L/10a	1+1+3回	3, 7, 14日	圃場A:2.26/0.18 (#) 圃場B:0.88/0.05 (#)

(#) これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。
最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書(案)「チアメトキサム」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

チアメトキサム海外作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
小麦 (穀粒)	16	35%水和剤	30g ai/100kg 種子 種子処理	1回	88, 95, 102, 109, 117日	圃場A: ND / ND
					91, 98, 105, 113, 119日	圃場B: ND / ND
					92日	圃場C: ND / ND
					98日	圃場D: ND / ND
					99日	圃場E: ND / ND
					103日	圃場F: ND / ND
					107日	圃場G: ND / ND
						圃場H: ND / ND
					110日	圃場I: ND / ND
					114日	圃場J: ND / ND
					117日	圃場K: ND / ND
					119日	圃場L: ND / ND
					122日	圃場M: ND / ND
					124日	圃場N: ND / ND
127日	圃場O: ND / ND					
大麦 (穀粒)	9	25% 顆粒水和剤	0.0625lb ai/acre 散布	2回	20日	圃場A: 0.15 / 0.02
					20日	圃場B: 0.14 / 0.01
					21日	圃場C: 0.01 / <0.01
					21日	圃場D: <0.01 / <0.01
					21日	圃場E: 0.13 / <0.01
					21日	圃場F: 0.12 / <0.01
					21日	圃場G: 0.20 / <0.01
					24日	圃場H: <0.01 / <0.01
					24日	圃場I: <0.01 / <0.01
ソルガム (穀粒)	9	70%水和剤	300g ai/100kg 種子 種子処理	1回	112日	圃場A: <0.01 / <0.01
					116日	圃場B: <0.01 / <0.01
					130日	圃場C: <0.01 / <0.01
					132日	圃場D: <0.01 / <0.01
					134日	圃場E: <0.01 / <0.01
					144日	圃場F: <0.01 / <0.01
					149日	圃場G: <0.01 / <0.01
					156日	圃場H: <0.01 / <0.01
174日	圃場I: <0.01 / <0.01					
ライマ豆 (未成熟子実)	6	47.6% 水和剤	50g ai/100kg 種子 種子処理	1回	91日	圃場A: <0.01 / <0.01
					112日	圃場B: <0.01 / <0.01
					122日	圃場C: <0.01 / <0.01
					126日	圃場D: <0.01 / <0.01
					155日	圃場E: <0.01 / <0.01
					175日	圃場F: <0.01 / <0.01
さやいんげん (さや)	7	47.6% 水和剤	50g ai/100kg 種子 種子処理	1回	62日	圃場A: <0.01 / <0.01
					62日	圃場B: <0.01 / <0.01
					69日	圃場C: <0.01 / <0.01
					71日	圃場D: <0.01 / <0.01
					74日	圃場E: <0.01 / <0.01
					105日	圃場F: <0.01 / <0.01
さやえんどう (さや)	10	47.6% 水和剤	50g ai/100kg 種子 種子処理	1回	64日	圃場A: <0.01 / <0.01
					70日	圃場B: <0.01 / <0.01
					71日	圃場C: <0.01 / <0.01
					71日	圃場D: <0.01 / <0.01
					72日	圃場E: <0.01 / <0.01
					76日	圃場F: <0.01 / <0.01
					78日	圃場G: <0.01 / <0.01
					82日	圃場H: <0.01 / <0.01
					83日	圃場I: <0.01 / <0.01
83日	圃場J: <0.01 / <0.01					

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ラディッシュ (根部)	4	21.6%水和剤	0.1 lb ai/acre 定植時 土壌処理	1回	27日	圃場A: <0.01 / <0.01
					36日	圃場B: <0.01 / <0.01
					37日	圃場C: <0.01 / <0.01
					43日	圃場D: 0.02 / <0.01
ラディッシュ (葉部)	4	21.6%水和剤	0.1 lb ai/acre 定植時 土壌処理	1回	27日	圃場A: 0.08 / 0.02
					36日	圃場B: 0.08 / <0.01
					37日	圃場C: <0.01 / <0.01
					43日	圃場D: 0.36 / 0.09
ラディッシュ (根部)	2	21.6%水和剤	0.2 lb ai/acre 定植時 土壌処理	1回	37日	圃場A: 0.02 / <0.01
					41日	圃場B: 0.08 / <0.01
ラディッシュ (葉部)	2	21.6%水和剤	0.2 lb ai/acre 定植時 土壌処理	1回	37日	圃場A: 0.022 / 0.04
					41日	圃場B: 0.36 / 0.06
ラディッシュ (根部)	5	25.0% 顆粒水和剤	0.063 lb ai/acre 散布	1回	6日	圃場A: <0.01 / <0.01
					7日	圃場B: <0.01 / <0.01
					7日	圃場C: <0.01 / <0.01
					7日	圃場D: 0.01 / <0.01
					8日	圃場E: <0.01 / <0.01
ラディッシュ (葉部)	5	25.0% 顆粒水和剤	0.063 lb ai/acre 散布	1回	6日	圃場A: 0.24 / 0.11
					7日	圃場B: 0.14 / 0.04
					7日	圃場C: 0.15 / 0.04
					7日	圃場D: 0.07 / 0.03
					8日	圃場E: 0.61 / 0.02
ラディッシュ (根部)	1	25.0% 顆粒水和剤	0.063 lb ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: <0.01 / <0.01
ラディッシュ (葉部)	1	25.0% 顆粒水和剤	0.063 lb ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: 0.09 / 0.02
ラディッシュ (根部)	1	21.6%水和剤	0.063 lb ai/acre 散布	1回	7日	圃場A: 0.01 / <0.01
ラディッシュ (葉部)	1	21.6%水和剤	0.063 lb ai/acre 散布	1回	7日	圃場A: 0.08 / 0.02
ラディッシュ (根部)	1	21.6%水和剤	0.063 lb ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: <0.01 / <0.01
ラディッシュ (葉部)	1	21.6%水和剤	0.063 lb ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: 0.08 / 0.02
ブロッコリー (花蕾)	6	25% 顆粒水和剤	40g ai/acre 散布	2回	6日	圃場A: 0.06 / <0.01
					7日	圃場B: 0.06 / <0.01
					7日	圃場C: 0.16 / 0.03
					7日	圃場D: 0.13 / 0.02
					7日	圃場E: 0.07 / <0.01
					7日	圃場F: 0.03 / <0.01
キャベツ (葉球)	6	25% 顆粒水和剤	40g ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: 0.69 / 0.06
					7日	圃場B: 0.06 / 0.01
					7日	圃場C: 0.12 / 0.02
					7日	圃場D: 0.27 / 0.02
					7日	圃場E: 0.24 / 0.03
					7日	圃場F: 0.14 / 0.03
からしな (茎葉)	5	25% 顆粒水和剤	40g ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: 0.65 / 0.28
					7日	圃場B: 0.38 / 0.07
					7日	圃場C: 0.34 / 0.06
					7日	圃場D: 0.37 / 0.14
					7日	圃場E: 1.45 / 0.31
アーティチョーク (茎葉)	3	25% 顆粒水和剤	0.047lb ai/acre 散布	2回	4日	圃場A: 0.1970 / 0.0223
					4日	圃場B: 0.1544 / 0.0223
					4日	圃場C: 0.1619 / 0.0203

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
レタス (茎葉)	5	25% 顆粒水和剤	40g ai/acre 散布	2回	6日	圃場A: 0.03 / <0.01
					7日	圃場B: 0.21 / 0.01
					7日	圃場C: 0.09 / <0.01
					7日	圃場D: 0.02 / <0.01
					7日	圃場E: 0.16 / <0.01
リーフレタス (茎葉)	6	25% 顆粒水和剤	40g ai/acre 散布	2回	6日	圃場A: 0.21 / 0.01
					7日	圃場B: 0.48 / 0.03
					7日	圃場C: 0.80 / 0.03
					7日	圃場D: 0.06 / 0.01
					7日	圃場E: 0.85 / 0.04
にんじん (根部)	6	21.6%水和剤	0.21b ai/acre 定植時 土壌処理	1回	70日	圃場A: 0.02 / <0.01
					85日	圃場B: 0.01 / <0.01
					86日	圃場C: <0.01 / <0.01
					92日	圃場D: 0.03 / <0.01
					94日	圃場E: <0.01 / <0.01
にんじん (根部)	7	25% 顆粒水和剤	0.0631b ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: <0.01 / <0.01
					7日	圃場B: 0.01 / <0.01
					7日	圃場C: <0.01 / <0.01
					7日	圃場D: <0.01 / <0.01
					8日	圃場E: <0.01 / <0.01
にんじん (根部)	2	21.6%水和剤	0.0631b ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: <0.01 / <0.01
					7日	圃場B: <0.01 / <0.01
					7日	圃場C: <0.01 / <0.01
					7日	圃場D: <0.01 / <0.01
					7日	圃場E: <0.01 / <0.01
セロリ (茎葉)	6	25% 顆粒水和剤	40g ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: 0.09 / <0.01
					7日	圃場B: 0.37 / 0.02
					7日	圃場C: 0.30 / 0.01
					7日	圃場D: 0.20 / <0.01
					7日	圃場E: 0.07 / <0.01
きゅうり (果実)	8	25% 顆粒水和剤	40g ai/acre 散布	2回	0日	圃場A: 0.11 / <0.01
					0日	圃場B: 0.06 / <0.01
					0日	圃場C: 0.02 / <0.01
					0日	圃場D: 0.04 / <0.01
					0日	圃場E: 0.06 / <0.01
サマースカッシュ (果実)	5	25% 顆粒水和剤	40g ai/acre 散布	2回	0日	圃場A: 0.09 / <0.01
					0日	圃場B: 0.02 / <0.01
					0日	圃場C: 0.06 / <0.01
					0日	圃場D: 0.06 / <0.01
					0日	圃場E: 0.06 / <0.01
カンタローブ (果実)	6	25% 顆粒水和剤	40g ai/acre 散布	2回	0日	圃場A: 0.03 / <0.01
					0日	圃場B: 0.03 / <0.01
					0日	圃場C: 0.03 / <0.01
					0日	圃場D: 0.06 / <0.01
					0日	圃場E: 0.16 / <0.01
ほうれんそう (茎葉)	6	25% 顆粒水和剤	40g ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: 0.65 / 0.75
					7日	圃場B: 0.52 / 0.42
					7日	圃場C: 0.26 / 0.37
					7日	圃場D: 0.05 / 0.20
					8日	圃場E: 0.28 / 0.59
					8日	圃場F: 0.07 / 0.72

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
りんご (果実)	13	25% 顆粒水和剤	40g ai/acre 散布 + 20g ai/acre 散布	2+2回	14日	圃場A: 0.07 / <0.01
					14日	圃場B: 0.14 / <0.01
					14日	圃場C: 0.07 / <0.01
					14日	圃場D: 0.05 / <0.01
					14日	圃場E: 0.03 / <0.01
					14日	圃場F: 0.09 / <0.01
					14日	圃場G: 0.04 / <0.01
					14日	圃場H: 0.05 / <0.01
					14日	圃場I: 0.08 / <0.01
					14日	圃場J: 0.03 / <0.01
					14日	圃場K: 0.06 / <0.01
					14日	圃場L: 0.05 / 0.01
					なし (果実)	6
14日	圃場A: 0.04 / 0.03					
14日	圃場B: 0.03 / 0.02					
14日	圃場C: 0.03 / 0.01					
14日	圃場D: 0.05 / 0.04					
14日	圃場E: 0.05 / 0.02					
プラム (果実)	6	25% 顆粒水和剤	0.086lb ai/acre 散布	2回	14日	圃場F: 0.07 / 0.03
					14日	圃場A: 0.02 / 0.02
					14日	圃場B: <0.01 / <0.01
					14日	圃場C: <0.01 / <0.01
					14日	圃場D: <0.01 / <0.01
					14日	圃場E: 0.02 / 0.01
チェリー (果実)	4	25% 顆粒水和剤	0.086lb ai/acre 散布	2回	14日	圃場F: 0.01 / <0.01
					13日	圃場A: 0.24 / 0.02
					14日	圃場B: 0.15 / 0.03
					14日	圃場C: 0.21 / 0.03
チェリー (果実)	4	25% 顆粒水和剤	0.086lb ai/acre 散布	2回	15日	圃場D: 0.24 / 0.02
					14日	圃場A: 0.20 / 0.01
					14日	圃場B: 0.16 / <0.01
					14日	圃場C: 0.19 / 0.01
いちご (果実)	8	25% 顆粒水和剤	30g ai/acre 散布	3回	14日	圃場D: 0.13 / <0.01
					3日	圃場A: 0.14 / <0.01
					3日	圃場B: 0.05 / <0.01
					3日	圃場D: 0.06 / <0.01
					3日	圃場E: 0.04 / <0.01
					3日	圃場F: 0.16 / <0.01
					3日	圃場G: 0.02 / <0.01
3日	圃場H: 0.26 / <0.01					
3日	圃場I: 0.02 / <0.01					
ラズベリー (果実)	1	25% 顆粒水和剤	0.047lb ai/acre 散布	2回	3日	圃場A: 0.09 / 0.04
ラズベリー (果実)	3	25% 顆粒水和剤	0.047lb ai/acre 散布	2回	3日	圃場A: 0.06 / 0.01
					3日	圃場B: 0.11 / 0.02
					3日	圃場C: 0.01 / <0.01
ブラックベリー (果実)	1	25% 顆粒水和剤	0.047lb ai/acre 散布	2回	3日	圃場A: 0.18 / 0.02
ボイゼンベリー (果実)	1	25% 顆粒水和剤	0.047lb ai/acre 散布	2回	3日	圃場A: 0.19 / <0.01

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ブルーベリー (果実)	9	25% 顆粒水和剤	0.066lb ai/acre 散布	3回	3日	圃場A: 0.06 / 0.03
					3日	圃場B: 0.07 / 0.01
					3日	圃場C: 0.07 / 0.01
					3日	圃場D: 0.07 / 0.02
					3日	圃場E: 0.05 / 0.05
					3日	圃場F: 0.07 / <0.01
					3日	圃場G: 0.11 / <0.01
					3日	圃場H: 0.06 / <0.01
					3日	圃場I: <0.01 / <0.01
クランベリー (果実)	6	25% 顆粒水和剤	0.066lb ai/acre 散布	3回	28日	圃場A: <0.010 / <0.010
					30日	圃場B: <0.010 / <0.010
					30日	圃場C: <0.010 / <0.010
					30日	圃場D: <0.010 / <0.010
					30日	圃場E: <0.010 / <0.010
					30日	圃場F: <0.010 / <0.010
綿実 (種子)	11	47.6%水和剤 + 25% 顆粒水和剤	300g ai/100kg 種子 種子処理 + 32g ai/acre 散布	1+2回	20日	圃場A: <0.01 / <0.01
					20日	圃場B: 0.01 / <0.01
					20日	圃場C: 0.05 / <0.01
					21日	圃場D: 0.04 / <0.01
					21日	圃場E: <0.01 / <0.01
					21日	圃場F: <0.01 / <0.01
					21日	圃場G: <0.01 / <0.01
					21日	圃場H: <0.01 / <0.01
					21日	圃場I: <0.01 / <0.01
					23日	圃場J: 0.01 / <0.01
					24日	圃場K: 0.03 / <0.01
綿実 (種子)	11	25% 顆粒水和剤	45g ai/acre 散布	2回	20日	圃場A: <0.01 / <0.01
					20日	圃場B: <0.01 / <0.01
					20日	圃場C: 0.05 / <0.01
					21日	圃場D: 0.14 / <0.01
					21日	圃場E: <0.01 / <0.01
					21日	圃場F: <0.01 / <0.01
					21日	圃場G: 0.01 / <0.02
					21日	圃場H: <0.01 / <0.01
					21日	圃場I: <0.01 / <0.01
					23日	圃場J: 0.01 / <0.01
					24日	圃場K: 0.02 / <0.01
なたね (種子)	11	10.3%水和剤	400g ai/100kg 種子 種子処理	1回	90日	圃場A: <0.025 / <0.025
					90日	圃場B: <0.025 / <0.025
					94日	圃場C: <0.025 / <0.025
					94日	圃場D: <0.025 / <0.025
					103日	圃場E: <0.025 / <0.025
					104日	圃場F: <0.025 / <0.025
					108日	圃場G: <0.025 / <0.025
					119日	圃場H: <0.025 / <0.025
					120日	圃場I: <0.025 / <0.025
					120日	圃場J: <0.025 / <0.025
					138日	圃場K: <0.025 / <0.025
なたね (種子)	8	10.3%水和剤	400g ai/100kg 種子 種子処理	1回	87日	圃場A: <0.025 / <0.025
					87日	圃場B: <0.01 / <0.01
					91日	圃場C: <0.01 / <0.01
					97日	圃場D: <0.025 / <0.025
					97日	圃場E: <0.01 / <0.01
					116日	圃場F: <0.01 / <0.01
					116日	圃場G: <0.01 / <0.01
					190日	圃場H: <0.01 / <0.01

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ペカン (種子)	5	25% 顆粒水和剤	30g ai/acre 散布	2回	12日	圃場A: <0.01 / <0.01
					14日	圃場B: <0.01 / <0.01
					14日	圃場C: <0.01 / <0.01
					14日	圃場D: <0.01 / <0.01
					14日	圃場E: <0.01 / <0.01
コーヒー (種子)	4	1%チアメトキサム・1%シプロコナゾール粒剤 + 1.0%粒剤	300g ai/ha 散布 + 300g ai/ha 散布	1+1回	54日	圃場A: <0.02 / <0.02
					55日	圃場B: <0.02 / <0.02
					60日	圃場C: <0.02 / <0.02
					60日	圃場D: <0.02 / <0.02
ホップ (乾花)	3	21.6%水和剤	0.125lbs ai/ha 散布	1回	62日	圃場A: 0.0548 / 0.0272
					64日	圃場B: 0.0269 / <0.025
					66日	圃場C: <0.025 / <0.025

最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
米	0.3	0.1	○・申		カナダ	<0.005, <0.005/ 0.027(#), 0.024(#)/ 0.078(#), 0.045(#)/ 0.045(#&), 0.070(#&)/ <0.005(#), <0.005(#)/ 0.096(#), 0.086(#)
小麦	0.02	0.02			カナダ	【ND(n=16)(カナダ小麦)】
大麦	0.3	0.02		0.30	アメリカ	【<0.01-0.20(n=9)(米国大 麦)】
ライ麦		0.02		0.02	カナダ	
とうもろこし	0.02	0.02	○	0.02	アメリカ	<0.005(#), <0.005(#)
そば		0.02		0.02	カナダ	
その他の穀類	0.02	0.02		0.02	アメリカ	【<0.01(n=9)(米国ソルガ ム)】
大豆	0.02	0.02	○	0.02	アメリカ	<0.005(#), <0.005(#)/ <0.005(#), <0.005(#)
小豆類	0.05	0.5	○	0.02	アメリカ	<0.005(#), <0.005(#)/ 0.014(#), 0.022(#)(小豆) 0.012, <0.005/<0.01(#), <0.01(#)(いんげん) 【<0.01(n=6)(米国ライマ 豆)】
えんどう	0.02	0.5		0.02	アメリカ	【米国ライマ豆参照】
そらまめ	0.02	0.5		0.02	アメリカ	【米国ライマ豆参照】
らっかせい		0.5		0.02	カナダ	
その他の豆類	0.02	0.5		0.02	アメリカ	【米国ライマ豆参照】
ばれいしょ	0.3	0.5	○	0.25	アメリカ	<0.005(#), 0.100(#,\$)/ 0.02, <0.01
さといも類	0.3	0.5	○	0.02	アメリカ	0.14(#&), 0.039(#&)/ 0.022(#), <0.01(#)/ 0.038(#), <0.01(#)
かんしょ	0.03	0.5	○	0.02	アメリカ	<0.005, <0.005/ 0.012(#), 0.006(#)
やまいも		0.5		0.02	アメリカ	
こんにやくいも	0.1	0.5	申	0.02	カナダ	<0.01, 0.02
その他のいも類		0.5		0.02	アメリカ	
てんさい	0.02	0.1	○	0.02	カナダ	<0.005, 0.005
さとうきび		0.02		0.02	カナダ	
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.2	0.02	申	0.02	アメリカ	0.006(#), <0.005(#)/ 0.011(#), 0.028(#,\$)/ 0.015(#), 0.010(#)
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	3	2	申	0.02	カナダ	0.009(#), 0.012(#)/ 1.320(#,\$), 0.247(#)/ 0.358(#), 0.378(#)
かぶ類の根	0.02	0.02		0.02	アメリカ	【米国にんじん参照】
かぶ類の葉		2		0.02	カナダ	
西洋わさび	0.02	0.02		0.02	アメリカ	【米国にんじん参照】
クレソン	3	1		4.0	アメリカ	【米国リーフレタス参照】
はくさい	2	1	○	4.5	アメリカ	0.016, 0.010/0.072, 0.354 【米国キャベツ参照】
キャベツ	2	2	○	4.5	アメリカ	0.310, 0.078 【0.06-0.69(n=6)(米国 キャベツ)】
芽キャベツ	2	2		4.5	アメリカ	【米国キャベツ参照】
ケール	3	2		3.0	アメリカ	【米国からしな参照】
こまつな	5	2	○・申	3.0	アメリカ	0.92, 2.34/ 1.58, 2.10

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
きょうな	3	2	○・申		3.0	アメリカ 0.93(#), 1.18(#)
チンゲンサイ	5	2	○・申		3.0	アメリカ 0.78(#), 2.82(#)
カリフラワー	2	2	○		4.5	アメリカ 0.128(#), 0.055(#) 【米国キャベツ参照】 0.018, 0.060/0.825, 0.359
ブロッコリー	2	2	○		4.5	アメリカ 【米国キャベツ参照】
その他のあぶらな科野菜	5	2	○・申		4.5	アメリカ (チンゲンサイ参照)
ごぼう	0.02	0.02			0.02	アメリカ 【米国にんじん参照】
サルシフィー	0.02	0.02			0.02	アメリカ 【米国にんじん参照】
アーティチョーク	0.45	2			0.45	アメリカ 【0.1544-0.1970(n=3) (米国アーティチョーク)】
チコリ	3	2			4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】
エンダイブ	3	2			4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】
しゅんぎく	3	2			4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】
レタス	3	2	○・申		4.0	アメリカ 0.290(#), 0.614(#)(レタス) 0.40(#), 1.36(#)/7.81(#), 9.87(#)(サラダ菜) 0.28(#), <0.05(#)/7.34(#), 3.14(#)(リーフレタス) 【0.02-0.21(n=5)(米国レタ ス)】 【0.06-1.1(n=6) (米国リーフレタス)】
その他のさく科野菜	3	2			4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】
たまねぎ		0.02			0.02	カナダ 0.094, 0.078/ 0.566(&), 0.557(&)
ねぎ	2	2	○		0.02	カナダ
にんにく		0.02			0.02	カナダ
にら	2	2	○		0.02	カナダ 0.74(#\$), 0.15(#)/0.38(#)
アスパラガス	0.02	2	○		0.02	カナダ <0.005, <0.005
わけぎ	10	2	○・申		0.02	カナダ 0.05(#), 0.61(#)/ 1.28(#), 3.96(#\$)
その他のゆり科野菜		2			0.02	カナダ
にんじん	0.02	0.02			0.02	アメリカ 【<0.01-0.03(n=15)(米国 にんじん)】
パースニップ	0.02	0.02			0.02	アメリカ 【米国にんじん参照】
パセリ	3	2			4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】 <0.1, 0.30(\$) 【0.07-0.37(n=6)(米国セロ リ)】
セロリ	0.7	2	○		4.0	アメリカ
みつば		2			0.02	カナダ
その他のせり科野菜	3	2			4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】
トマト	2	0.5	○・申		0.25	アメリカ 0.008/0.104, 0.077/ 0.154/0.156(トマト) 0.06, <0.02/0.44, 0.08/ 0.79(\$), 0.17(ミントマト)
ピーマン	1	1	○		0.25	アメリカ 0.023, <0.005/ 0.200, 0.267/ 0.411, 0.310/ 0.439(&), 0.402(&)
なす	0.5	0.5	○		0.25	アメリカ <0.005(#), <0.005(#)/ 0.069(#), 0.040(#)/ 0.121(#\$), 0.054(#)/ 0.106(#), 0.055(#)
その他のなす科野菜	2	1	○・申		0.25	アメリカ 0.53, 0.60(ししとう) 0.76(#), 0.34(#)(とうが らし)

農産物名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
きゅうり	0.5	0.5	○		0.2 アメカ	0.008, 0.005/ 0.076, 0.104/ 0.172(&), 0.162(&)/ 0.141(&), 0.132(&) 【0.02-0.11(n=8) (米国きゅうり)】
かぼちや	0.2	0.5			0.2 アメカ	【0.02-0.09(n=5)(米国サ マスカッシュ)】
しろり	0.2	0.5			0.2 アメカ	【米国サマスカッシュ参照】
すいか	0.2	0.5	○		0.2 アメカ	0.017, 0.046
メロン類果実	0.3	0.5	○		0.2 アメカ	0.008, 0.007/ 0.049, 0.029/ 0.023, 0.064(\$)/ 0.008, 0.010
まくわり	0.2	0.5			0.2 アメカ	【米国カンタローブ参照】
その他のうり科野菜	0.5	0.5	○		0.2 アメカ	0.17(#), 0.06(#)(にがうり) 0.11, 0.09(食用へちま) 【0.03-0.16(n=5)(米国カ ンタローブ)】
ほうれんそう	10	2	申	4.0	アメカ	1.26, 2.62/0.96, 4.02(\$) 【0.05-0.65(n=6)(米国 ほうれんそう)】
たけのこ		0.02		0.02	カナダ	
オクラ	0.7	1	○	0.02	カナダ	0.30, 0.21
しょうが		0.02		0.02	アメカ	
未成熟えんどう	0.02	0.5		0.02	アメカ	【<0.01(n=10) (米国さやえんどう)】
未成熟いんげん	0.3	0.5	○	0.02	アメカ	0.071, 0.053 【<0.01(n=7)(米国 さやいんげん)】
えだまめ	0.3	0.5	○	0.02	アメカ	0.061(#), 0.025(#)/ 0.090(#&), 0.025(#&)
マッシュルーム		0.02		0.02	カナダ	
しいたけ		0.02		0.02	カナダ	
その他のきのこ類		0.02		0.02	カナダ	
その他の野菜	3	2	○	4.0	アメカ	0.008, <0.005/0.006, <0.005(れんこん) 0.4, <0.2(ウコギ) 0.07, 0.42(エンサイ) 0.66, 0.36(モロヘイヤ) 【米国リーフレタス参照】
みかん	0.3	0.5	○	1	オーストラリア	0.040(&), 0.008(&)/ 0.018, <0.005/ 0.080(&)/0.094(#&)/ 0.030/0.050(#)
なつみかんの果実全体	1	0.5	○・申	1	オーストラリア	0.1, 0.14/ 0.06, 0.07/ 0.48(#\$), 0.22
レモン	1	0.5	○・申	1	オーストラリア	(なつみかん参照)
オレンジ(ネーブルオレンジを含む)	1	0.5	○・申	1	オーストラリア	(なつみかん参照)
グレープフルーツ	1	0.5	○・申	1	オーストラリア	(なつみかん参照)
ライム	1	0.5	○・申	1	オーストラリア	(なつみかん参照)
その他のかんきつ類果実	1	0.5	○・申	1	オーストラリア	0.040/0.13(すだち) 0.058/0.05(かぼす) 0.097(ゆず) (なつみかん参照)

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm	
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm		
りんご	0.3	1	○		0.2	アメリカ	0.064, 0.050/0.092, 0.044 【0.03-0.14(n=13) (米国りんご)】 0.045, 0.018/0.039(#)/ 0.32(\$), 0.14
日本なし	1	1	○		0.2	アメリカ	(日本なし参照) 【0.03-0.07(n=6)(米国西 洋なし)】
西洋なし	1	1	○		0.2	アメリカ	【米国りんご参照】
マルメロ	0.2	1			0.2	アメリカ	【米国りんご参照】
びわ	0.2	0.5			0.2	アメリカ	【米国りんご参照】
もも	0.5	0.5	○		0.5	アメリカ	0.008, 0.059/ <0.02, <0.02/ 0.12(&), 0.14(&)
ネクタリン	0.5	1			0.5	アメリカ	【米国チェリー参照】
あんず(アブリコットを含む)	3	5	○		0.5	アメリカ	(うめ参照)
すもも(プルーンを含む)	0.5	5	○		0.5	アメリカ	【米国チェリー参照】
うめ	3	5	○		0.02	カナダ	0.089, 1.080(\$)
おうとう(チェリーを含む)	5	5	○		0.5	アメリカ	1.36, 1.62(\$) 【0.13-0.24(n=8) (米国チェリー)】
いちご	2	5	○		0.3	アメリカ	0.014(#), <0.005(#)/ 0.802(#&), 0.427(#&) 【0.02-0.26(n=8) (米国いちご)】
ラズベリー	0.35	5			0.35	アメリカ	【0.01-0.11(n=4) (米国ラズベリー)】
ブラックベリー	0.35	5			0.35	アメリカ	【米国ラズベリー参照】
ブルーベリー	0.2	5			0.20	アメリカ	【<0.01-0.11(n=9) (米国ブルーベリー)】
クランベリー	0.02	5			0.02	アメリカ	【<0.010(n=6) (米国クランベリー)】
ハuckleベリー	0.2	5			0.20	アメリカ	【米国ブルーベリー参 照】
その他のベリー類果実	0.35	5			0.35	アメリカ	【米国ラズベリー参照】
ぶどう	2	5	○		0.20	アメリカ	0.540, 0.943
かき	1	1	○		0.02	カナダ	0.320(\$), 0.164
バナナ	0.7	1	○		0.02	カナダ	0.19, 0.28
キウイ		0.5			1	ニュージーランド	
パパイヤ		1			0.02	カナダ	
アボカド		1			0.02	カナダ	
パイナップル		1			0.02	カナダ	
グアバ	0.2	1	○		0.02	カナダ	0.03(\$), 0.02
マンゴー	0.2	1	○		0.02	カナダ	0.03(\$), 0.02
パッションフルーツ		1			0.02	カナダ	
なつめやし		5			0.02	カナダ	
その他の果実	2	5	○		0.25	アメリカ	0.56(\$), 0.43(いちじく) 0.06, 0.22(アセロラ)
ひまわりの種子		0.02			0.02	アメリカ	
ごまの種子		0.02			0.02	カナダ	
べにばなの種子		0.02			0.02	アメリカ	
綿実	0.1	0.02			0.10	アメリカ	【<0.01-0.14(n=22) (米国綿実)】
なたね	0.02	0.02			0.02	アメリカ	【<0.01-<0.025(n=19) (米国なたね)】
その他のオイルシード		0.02			0.02	アメリカ	
ぎんなん		0.02			0.02	カナダ	
くり		0.02			0.02	カナダ	

農産物名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
ペカン アーモンド くるみ その他のナッツ類	0.02	0.02 0.02 0.02 0.02			0.02 アメリカ カナダ カナダ カナダ	【<0.01(n=5)(米国ペカン)】
茶	15	20	○		0.02 カナダ	7.13, 2.28/9.60, 3.23(荒茶) 6.08, 1.54/8.40, 2.81(浸出液)
コーヒー豆 カカオ豆	0.05	0.04 0.02			0.05 0.02 アメリカ カナダ	【<0.02(n=4) (米国コーヒー豆)】
ホップ	0.1	0.06			0.1 アメリカ	【<0.025-0.0548(n=3) (米国ホップ)】
その他のスパイス	5	5	○		0.02 カナダ	0.65, 0.74/0.47, 0.58/ 1.99(\$)/1.12(#)/1.00/ 1.36(#)(みかん果皮) <0.02, <0.02(みょうが) 0.47, 0.54(セージ) 0.31(#), 0.08(#)/2.26(#), 0.88(#)(あさつき) 【0.34-1.45(n=5) (米国からしな)】 (チンゲンサイ参照)
その他のハーブ	5	2	○・申		1.5 アメリカ	
牛の筋肉 豚の筋肉 その他の陸棲哺乳類の筋肉	0.01 0.01 0.01	0.02 0.02 0.02			0.02 0.02 0.02 アメリカ アメリカ アメリカ	
牛の脂肪 豚の脂肪 その他の陸棲哺乳類の脂肪	0.01 0.01 0.01	0.02 0.02 0.02			0.02 0.02 0.02 アメリカ アメリカ アメリカ	
牛の肝臓 豚の肝臓 その他の陸棲哺乳類の肝臓	0.01 0.01 0.01	0.02 0.02 0.02			0.02 0.02 0.02 アメリカ アメリカ アメリカ	
牛の腎臓 豚の腎臓 その他の陸棲哺乳類の腎臓	0.01 0.01 0.01	0.02 0.02 0.02			0.02 0.02 0.02 アメリカ アメリカ アメリカ	
牛の食用部分 豚の食用部分 その他の陸棲哺乳類の食用部分	0.01 0.01 0.01	0.02 0.02 0.02			0.02 0.02 0.02 アメリカ アメリカ アメリカ	
乳	0.01	0.01			0.02 アメリカ	
鶏の筋肉 その他の家きんの筋肉		0.02 0.02			0.02 0.02 カナダ カナダ	
鶏の脂肪 その他の家きんの脂肪		0.02 0.02			0.02 0.02 カナダ カナダ	
鶏の肝臓 その他の家きんの肝臓		0.02 0.02			0.02 0.02 カナダ カナダ	
鶏の腎臓 その他の家きんの腎臓		0.02 0.02			0.02 0.02 カナダ カナダ	
鶏の食用部分 その他の家きんの食用部分		0.02 0.02			0.02 0.02 カナダ カナダ	
鶏の卵 その他の家きんの卵		0.02 0.02			0.02 0.02 カナダ カナダ	
魚介類						

平成17年11月29日厚生労働省告示第499号において新しく設定した基準値については、網をつけて示した。

(#)これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

(\$)これらの作物残留試験は、試験条件のばらつきを考慮し、この印をつけた試験結果を基準値策定の根拠とした。

(&)これらの作物残留試験は、試験方法の違いを考慮し、この印をつけた試験結果を基準値策定の根拠とした。

(別紙3)

チアメトキサム推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$)

食品群	基準値案 (ppm)	暴露評価に 用いた数値 (ppm)	国民平均 TMDI	国民平均 推定一日 摂取量 EDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	高齢者 (65歳以上) 推定一日 摂取量 EDI	妊婦 TMDI	妊婦 推定一日 摂取量 EDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	幼小児 (1~6歳) 推定一日 摂取量 EDI
米(玄米)	0.3	0.04	55.5	7.4	56.6	7.6	41.9	5.6	29.3	3.9
小麦	0.02	● 0.02	2.3	2.3	1.7	1.7	2.5	2.5	1.6	1.6
大麦	0.3	● 0.3	1.8	1.8	1.1	1.1	0.1	0.1	0.0	0.0
とうもろこし	0.02	0.005	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
その他の穀類	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大豆	0.02	0.005	1.1	0.3	1.2	0.3	0.9	0.2	0.7	0.2
小豆類	0.05	0.01	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
えんどう	0.02	● 0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そら豆	0.02	● 0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の豆類	0.02	● 0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ばれいしょ	0.3	0.03	11.0	1.2	8.1	0.9	11.9	1.4	6.4	0.7
さといも類(やつがしらを含む)	0.3	0.04	3.5	0.5	5.2	0.7	2.4	0.3	1.7	0.2
かんしょ	0.03	0.007	0.5	0.1	0.5	0.1	0.4	0.1	0.5	0.1
こんにやくいも	0.1	0.02	1.3	0.3	1.3	0.3	1.1	0.2	0.6	0.1
てんさい	0.02	0.005	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
だいこん類(ラディツシュを含む)の根	0.2	0.013	9.0	0.6	11.7	0.7	5.7	0.4	3.7	0.2
だいこん類(ラディツシュを含む)の葉	3	0.39	6.6	0.9	10.2	1.3	2.7	0.4	1.5	0.2
かぶ類の根	0.02	● 0.02	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
西洋わさび	0.02	● 0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
クレソン	3	● 3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
はくさい	2	● 2	58.8	58.8	63.4	63.4	43.8	43.8	20.6	20.6
キャベツ	2	0.37	45.6	8.4	39.8	7.4	45.8	8.5	19.6	3.6
芽キャベツ	2	● 2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
ケール	3	● 3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
こまつな	5	1.74	21.5	7.5	29.5	10.2	8.0	2.8	10.0	3.5
きょうな	3	1.06	0.9	0.3	0.9	0.3	0.3	0.1	0.3	0.1
チンゲンサイ	5	1.80	7.0	2.5	9.5	3.4	5.0	1.8	1.5	0.5
カリフラワー	2	● 2	0.8	0.8	0.8	0.8	0.2	0.2	0.2	0.2
ブロッコリー	2	● 2	9.0	9.0	8.2	8.2	9.4	9.4	5.6	5.6
その他のあぶらな科野菜	5	● 5	10.5	10.5	15.5	15.5	1.0	1.0	1.5	1.5
ごぼう	0.02	● 0.02	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
サルシフィー	0.02	● 0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アーティチョーク	0.45	0.17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
チコリ	3	● 3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
エンダイブ	3	● 3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
しゅんぎく	3	● 3	7.5	7.5	11.1	11.1	5.7	5.7	1.8	1.8

食品群	基準値案 (ppm)	暴露評価に 用いた数値 (ppm)	国民平均 TMDI	国民平均 推定一日 摂取量 EDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	高齢者 (65歳以上) 推定一日 摂取量 EDI	妊婦 TMDI	妊婦 推定一日 摂取量 EDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	幼小児 (1~6歳) 推定一日 摂取量 EDI
びわ	0.2	● 0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
もも	0.5	0.06	0.3	0.0	0.1	0.0	2.0	0.2	0.4	0.0
ネクタリン	0.5	● 0.5	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
アンズ (アプレコットを含む)	3	● 3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
スモモ (プルーンを含む)	0.5	● 0.5	0.1	0.1	0.1	0.1	0.7	0.7	0.1	0.1
うめ	3	0.06	3.3	0.1	4.8	0.1	4.2	0.1	0.9	0.0
おうとう (チェリーを含む)	5	1.49	0.5	0.1	0.5	0.1	0.5	0.1	0.5	0.1
いちご	2	0.31	0.6	0.1	0.2	0.0	0.2	0.0	0.8	0.1
ラズベリー	0.35	0.06	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ブラックベリー	0.35	● 0.35	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ブルーベリー	0.2	0.06	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
クランベリー	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ハuckleベリー	0.2	● 0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のベリー類果実	0.35	● 0.35	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ぶどう	2	0.74	11.6	4.3	7.6	2.8	3.2	1.2	8.8	3.3
かき	1	0.24	31.4	7.6	49.6	12.0	21.5	5.2	8.0	1.9
バナナ	0.7	0.24	8.8	3.0	12.4	4.2	6.1	2.0	7.9	2.7
グアバ	0.2	0.03	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
マンゴー	0.2	0.03	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の果実	2	0.32	7.8	1.2	3.4	0.5	2.8	0.4	11.8	1.9
綿実	0.1	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なたね	0.02	0.02	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1
ペカン	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
茶	15	5.56	45.0	16.7	64.5	23.9	52.5	19.5	21.0	7.8
コーヒー豆	0.05	0.02	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
ホップ	0.1	0.04	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のスパイス	5	0.99	0.5	0.1	0.5	0.1	0.5	0.1	0.5	0.1
その他のハーブ	5	● 5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
陸棲哺乳類の肉類	0.01	● 0.01	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.3	0.3
陸棲哺乳類の乳類	0.01	● 0.01	1.4	1.4	1.5	1.5	1.8	1.8	2.0	2.0
計			740.3	273.3	816.3	304.0	624.9	220.6	393.2	138.8
ADI比 (%)			77.2	28.5	83.7	31.2	62.4	22.0	138.3	48.8

●：個別の作物残留試験がないことから、暴露評価を行うにあたり基準値（案）の数値を用いた。なお、グループで基準値が設定されている作物については、根拠となった作物以外についてはTMDI試算を行った。

TMDI：理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

EDI：推定1日摂取量 (Estimated Daily Intake)

(参考)

これまでの経緯

平成12年	8月15日	初回農薬登録
平成16年	7月20日	農薬登録申請（れんこん、大豆、稲等に係る適用拡大申請）
平成16年	8月3日	厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成16年	8月5日	食品安全委員会（要請事項説明）
平成16年	8月18日	第15回農薬専門調査会
平成17年	4月13日	第28回農薬専門調査会
平成17年	11月29日	残留基準告示
平成17年	12月21日	農薬登録申請（だいこん、かんきつ、ミニトマト等に係る適用拡大申請）
平成18年	7月18日	厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成18年	7月20日	食品安全委員会（要請事項説明）
平成18年	10月4日	第5回農薬専門調査会総合評価第一部会
平成19年	7月9日	農薬登録申請（ほうれんそう、わけぎ、こんにゃく等）
平成19年	9月5日	第15回農薬専門調査会総合評価第一部会
平成20年	2月15日	第35回農薬専門調査会幹事会
平成20年	2月28日	食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表
平成20年	4月3日	食品安全委員会（報告）
平成20年	4月3日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成20年	9月18日	薬事・食品衛生審議会へ諮問
平成20年	10月24日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成20年	12月9日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

●薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

青木 宙	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授
井上 松久	北里大学副学長
○大野 泰雄	国立医薬品食品衛生研究所副所長
尾崎 博	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
加藤 保博	財団法人残留農薬研究所理事
斉藤 貢一	星薬科大学薬品分析化学教室准教授
佐々木 久美子	元国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長
志賀 正和	元農業技術研究機構中央農業総合研究センター虫害防除部長
豊田 正武	実践女子大学生活科学部生活基礎化学研究室教授
松田 りえ子	国立医薬品食品衛生研究所食品部部長
山内 明子	日本生活協同組合連合会組織推進本部 本部長
山添 康	東北大学大学院薬学研究科医療薬学講座薬物動態学分野教授
吉池 信男	青森県立保健大学健康科学部栄養学科教授
由田 克士	国立健康・栄養研究所栄養疫学プログラム国民健康・栄養調査プロジェクトリーダー
鱒淵 英機	大阪市立大学大学院医学研究科都市環境病理学教授

(○：部会長)

答申(案)

チアメキサム

食品名	残留基準値	
	ppm	
米	0.3	(注1)「その他の穀類」とは、穀類のうち、米、小麦、大麦、ライ麦、とうもろこし及びそば以外のものをいう。
小麦	0.02	
大麦	0.3	
とうもろこし	0.02	
その他の穀類(注1)	0.02	(注2)いんげん、ささげ、サルタニ豆、サルタピア豆、バター豆、ペギア豆、ホワイト豆、ライマ豆及びレンズを含む。
大豆	0.02	
小豆類(注2)	0.05	
えんどう	0.02	
そらまめ	0.02	(注3)「その他の豆類」とは、豆類のうち、大豆、小豆類、えんどう、そら豆、らつかせい及びスパイス以外のものをいう。
その他の豆類(注3)	0.02	
ばれいしよ	0.3	
さといも類	0.3	
かんしよ	0.03	(注4)「その他のあぶらな科野菜」とは、あぶらな科野菜のうち、だいこん類の根、だいこん類の葉、かぶ類の根、かぶ類の葉、西洋わさび、クレソン、はくさい、キャベツ、芽キャベツ、ケール、こまつな、きょうな、チンゲンサイ、カリフラワー、ブロッコリー及びハーブ以外のものをいう。
こんにやくいも	0.1	
てんさい	0.02	
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.2	
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	3	
かぶ類の根	0.02	
西洋わさび	0.02	
クレソン	3	(注5)「その他のきく科野菜」とは、きく科野菜のうち、ごぼう、サルシフィー、アーティチョーク、チコリ、エンダイブ、しゅんぎく、レタス及びハーブ以外のものをいう。
はくさい	2	
キャベツ	2	
芽キャベツ	2	
ケール	3	
こまつな	5	(注6)「その他のせり科野菜」とは、せり科野菜のうち、にんじん、パースニップ、パセリ、セロリ、みつば、スパイス及びハーブ以外のものをいう。
きょうな	3	
チンゲンサイ	5	
カリフラワー	2	
ブロッコリー	2	
その他のあぶらな科野菜(注4)	5	(注7)「その他のなす科野菜」とは、なす科野菜のうち、トマト、ピーマン及びなす以外のものをいう。
ごぼう	0.02	
サルシフィー	0.02	
アーティチョーク	0.45	
チコリ	3	
エンダイブ	3	(注8)「その他のうり科野菜」とは、うり科野菜のうち、きゅうり、かぼちや、しろり、すいか、メロン類果実及びまくわり以外のものをいう。
しゅんぎく	3	
レタス	3	
その他のきく科野菜(注5)	3	
ねぎ	2	
にら	2	
アスパラガス	0.02	(注9)「その他の野菜」とは、野菜のうち、いも類、てんさい、さとうきび、あぶらな科野菜、きく科野菜、ゆり科野菜、せり科野菜、なす科野菜、うり科野菜、ほうれんそう、たけのこ、オクラ、しょうが、未成熟えんどう、未成熟いんげん、えだまめ、きのこ類、スパイス及びハーブ以外のものをいう。
わけぎ	10	
にんじん	0.02	
パースニップ	0.02	
パセリ	3	
セロリ	0.7	
その他のせり科野菜(注6)	3	
トマト	2	
ピーマン	1	
なす	0.5	
その他のなす科野菜(注7)	2	
きゅうり	0.5	
かぼちや	0.2	
しろり	0.2	
すいか	0.2	
メロン類果実	0.3	
まくわり	0.2	
その他のうり科野菜(注8)	0.5	
ほうれんそう	10	
オクラ	0.7	
未成熟えんどう	0.02	
未成熟いんげん	0.3	
えだまめ	0.3	
その他の野菜(注9)	3	

チアマトキサム(つづき)

食品名	残留基準値 ppm
みかん	0.3
なつみかんの果実全体	1
レモン	1
オレンジ(ネーブルオレンジを含む)	1
グレープフルーツ	1
ライム	1
その他のかんきつ類果実(注10)	1
りんご	0.3
日本なし	1
西洋なし	1
マルメロ	0.2
びわ	0.2
もも	0.5
ネクタリン	0.5
あんず(アプrikottを含む)	3
すもも(プルーンを含む)	0.5
うめ	3
おうとう(チェリーを含む)	5
いちご	2
ラズベリー	0.35
ブラックベリー	0.35
ブルーベリー	0.2
クランベリー	0.02
ハックルベリー	0.2
その他のベリー類果実(注11)	0.35
ぶどう	2
かき	1
バナナ	0.7
グアバ	0.2
マンゴー	0.2
その他の果実(注12)	2
綿実	0.1
なたね	0.02
ペカン	0.02
茶	15
コーヒー豆	0.05
ホップ	0.1
その他のスパイス(注13)	5
その他のハーブ(注14)	5
牛の筋肉	0.01
豚の筋肉	0.01
その他の陸棲哺乳類に属する動物(注15)の筋肉	0.01
牛の脂肪	0.01
豚の脂肪	0.01
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.01
牛の肝臓	0.01
豚の肝臓	0.01
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.01
牛の腎臓	0.01
豚の腎臓	0.01
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.01
牛の食用部分	0.01
豚の食用部分	0.01
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.01
乳	0.01

(注10)「その他のかんきつ類果実」とは、かんきつ類果実のうち、みかん、なつみかん、なつみかんの外果皮、なつみかんの果実全体、レモン、オレンジ、グレープフルーツ、ライム及びスパイス以外のものをいう。

(注11)「その他のベリー類果実」とは、ベリー類果実のうち、いちご、ラズベリー、ブラックベリー、ブルーベリー、クランベリー及びハックルベリー以外のものをいう。

(注12)「その他の果実」とは、果実のうち、かんきつ類果実、りんご、日本なし、西洋なし、マルメロ、びわ、もも、ネクタリン、あんず、すもも、うめ、おうとう、ベリー類果実、ぶどう、かき、バナナ、キウイ、パパイヤ、アボカド、パイナップル、グアバ、マンゴー、パッションフルーツ、なつめやし及びスパイス以外のものをいう。

(注13)「その他のスパイス」とは、スパイスのうち、西洋わさび、わさびの根茎、にんにく、とうがらし、パプリカ、しょうが、レモンの果皮、オレンジの果皮、ゆずの果皮及びごまの種子以外のものをいう。

(注14)「その他のハーブ」とは、ハーブのうち、クレンソ、にら、パセリの茎、パセリの葉、セロリの茎及びセロリの葉以外のものをいう。

(注15)「その他の陸棲哺乳類に属する動物」とは、陸棲哺乳類に属する動物のうち、牛及び豚以外のものをいう。